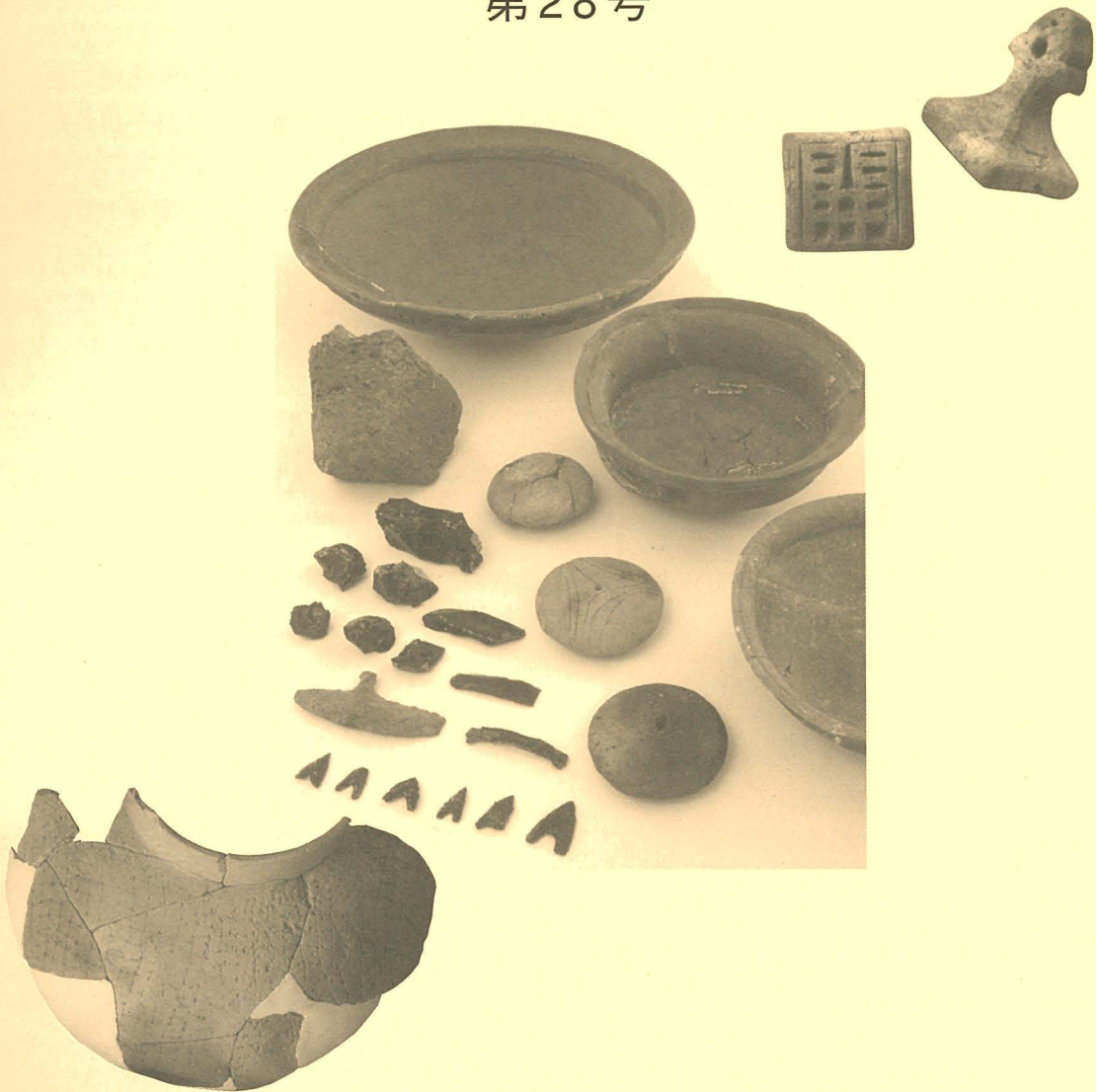


平成20(2008)年度

福岡市埋蔵文化財センター年報

第28号



2009

福岡市教育委員会

序

アジアの玄関口である福岡市は、古来から対外交渉の門戸として栄えてきました。このことを物語るように、市内には数多くの遺跡が残されています。

埋蔵文化財センターでは、これら発掘調査で出土した遺物や記録類を体系的に収蔵管理し、多くの市民に活用して頂くために、昭和57年2月に開館しました。以来、二度にわたって増改築を行い、収蔵庫・展示室・研修室・保存処理室などの充実に努めてまいりました。

展示におきましては常設展示のほかに講座に合わせた企画展示や速報コーナーを設けて新しい情報発信に努めています。また、エントランスのプチ展示と称したコーナーでは講座に合わせた遺物展示のほか遊び心をもった展示を心がけ、新しい企画を試みていこうと考えています。

また、平成17年度から小・中学校を中心に、ふるさとを誇りに思う心を育てる教育の一環として、出前授業を始め、平成20年度では50校に出かけて行きました。そこでは各校区で実施された遺跡調査の成果をパネルを用いて説明したり、出土遺物を教室に持ち込み児童や生徒に触れさせて古代の人々の生活を体験できるようにしました。今後、積極的に機会を得て外へ出かけ、多くの市民の皆様が、歴史を体験できるように努めていきたいと思えます。

末尾になりましたが、今後なお一層、当センターをご利用されることをお願い申し上げますとともに、関係各位のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 山田 裕嗣

目次

I 平成20(2008)年度の活動	1
1. 資料の収蔵・整理	1
2. 教育普及活動	5
3. 保存処理	15
4. 入館者数	28
5. 平成20年度当初予算	28
II 埋蔵文化財センターの概要	29
1. 組織と職員	29
2. 施設	30
付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等	31
付2 平成20年度刊行福岡市埋蔵文化財調査報告書一覧	裏表紙見返し

例言

1. 本書は平成20年度(2008年4月1日～2009年3月31日)の福岡市埋蔵文化財センターの業務年報である。
2. 本書の作成は、力武卓治、荒牧宏行、田上勇一郎、星野恵美、上角智希が担当した。

※表紙写真は、鴻臚館跡第21次出土「開」石印、重留遺跡第1次出土遺物、那珂遺跡群第102次出土網目付き壺

I 平成20(2008)年度の活動

1. 資料の収蔵・整理

(1) 収蔵方針

昭和44(1969)年、教育委員会に文化課が発足して以来、市内における緊急調査や史跡整備に伴う確認調査などで得られた出土品および写真・図面等の記録類は膨大な数量に及んでいる。これら考古資料の保存と活用をはかり、市民文化の向上に資するために、昭和57(1982)年、福岡市埋蔵文化財センター(以下、センターと呼ぶ)が設立された。

現在、福岡市の文化財行政は教育委員会文化財部(組織はII-1章参照)で行っている。センターは報告書が刊行された考古資料を発掘事業担当課から受入れて収蔵し、管理することを事業の柱の一つとしている。(発掘事業は行っていない)。

発掘調査で得られた考古資料は、速やかに一般公開され、広く市民や研究者に活用される事が望ましい。このため文化財部では発掘調査、整理、収蔵の一連の作業が統一性をもって円滑に遂行され、考古資料の多用で迅速な活用をはかるため、昭和60(1985)年に「埋蔵文化財資料の収蔵整理要項」(「福岡市埋蔵文化財センター年報」第5号1985所収)を策定した。この要項はその後実状にあわせ細部を改変したものの、策定後から要項に沿った発掘調査、整理作業が実施され、センターへの考古資料の収蔵も円滑なものとなっており、また収蔵された考古資料の活用も年々増加している(I-2章参照)。

(2) 平成20年度の本収蔵

センターに本収蔵されている考古資料は、発掘事業担当課が報告書刊行後要項に沿った整理作業を行い搬入・収蔵したもの(埋文課と表記)と、要項策定以前に発掘調査が行われ仮収蔵されていた資料をセンターで要項に沿って整理したうえ収蔵したもの(センターと表記)とに区分される。

平成20年度までにセンターに本収蔵されたのは1,531遺跡(追加収蔵まで含めた収蔵数は1,591件)で、その内訳は登録遺物932,950点、甕棺1,475個、コンテナ96,305箱、ネガフィルム333,210点、スライドフィルム425,164点、図面類153,412枚、写真カード183,787枚となっている(表1)。平成20年度までの市内での発掘調査は2,185件であり、全体の約70%が本収蔵され、検索が可能となった。

平成20年度の本収蔵は、埋文課から搬入・収蔵されたもの85遺跡、センターで収蔵したもの16遺跡のあわせて101遺跡(新規収蔵94遺跡、追加収蔵7遺跡)である。主な収蔵品は遺物がコンテナ3,388箱と甕棺27個(コンテナ換算する場合は甕棺1個を12箱とする)、写真類が19,950点、図面類が5,505点、写真カードが4,808枚である(表2)。

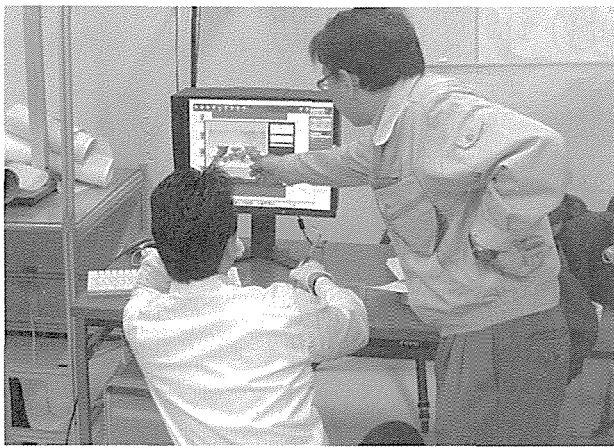
出土品のうち土器・石器は一般収蔵庫に、金属器・木製品・玉類は特別収蔵庫に収納している。また写真類は第一記録類収蔵庫、図面類は第二記録類収蔵庫、写真カードは第一資料整理室へ納めた。

(3) 収蔵遺物写真撮影

増え続ける収蔵遺物について、その活用を図っていくことが今、大きな課題となっている。その課題に対して、バックヤードに収蔵された遺物を少しでも多く公開していくことを目的に平成19年度から収蔵遺物写真撮影を実施した。

膨大な収蔵遺物のなかで撮影するものは重要な遺物や優品に限られるが、それでも、かなりの量が予想される。そのため、まずは展示遺物や貸し出し件数が多いものから始めていくことにした。

平成19年度は業者委託で第2展示室の遺物をテーマに合わせて集合し、80カットの撮影を行っ



平成 20 年度収蔵遺物写真撮影風景

た。撮影は4×5インチカメラで行い、出来上がったカラーリバーサルフィルムをスキャニングし、高精細画像データを作成した。さらにこのマスター用の高精細画像からデータが小さく、扱い易い閲覧用画像を作成した。

	高精細画像	閲覧用画像
解像度	400dpi	150dpi
画像サイズ (pix)	6,614 × 5,291	1,125 × 900
ファイル形式	RGB TIFF	RGB JPEG
その他	24bit フルカラー	

平成 19 年度データ処理一覧

平成 20 年度はバックヤードに収蔵した重要遺物 262 カットを 60MB 以上の解像度をもったデジタルカメラで撮影した。撮影に当たってはモニターで撮影者と職員担当者が構図、色調等を協議

し、校正を行った。

また、撮影した RAW データはカラーチャートで適切なホワイトバランスをサンプリングして現像を行った。現像した画像データは以下の処理を行った。

これらの資料はアーカイブのほか、図録、学習シート、ホームページ、写真検索システム等に掲載し展示、広報や学習用として活用を図る予定である。

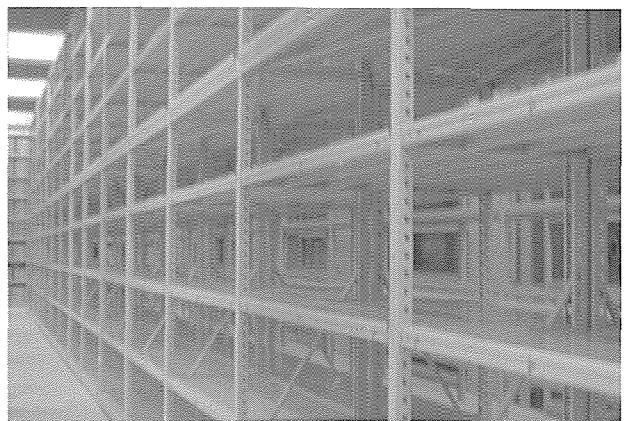
	高精細画像	閲覧用画像
画像サイズ (pix)	6,614 × 5,291	1,125 × 900
ファイル形式	RGB 8ビット TIFF プロファイル AdobeRGB	RGB JPEG

平成 20 年度データ処理一覧

(4) 収蔵棚の増設

発掘調査によって増え続ける遺物の収蔵、管理も大きな課題の一つである。年間、コンテナ箱にして 4,000 ~ 6,000 箱が当センターへ搬入されるが、その収蔵・管理のための場所の確保と収蔵棚の設置は予算削減のなか、苦慮しているところである。

平成 20 年度は増築棟 3 階収蔵庫の約 1/8 スペースにコンテナ箱約 9,000 箱が収納できる棚を設置した。また、スライドボックス・フィルム収蔵棚の増設も行った



平成 20 年度設置収蔵

2. 教育・普及

(1) 教育活動

1) 出前授業

福岡市の教育方針では、「学ぶことに興味を持ち、未知のものを知る感動を味わい、自由な発想をもって様々なことを構想するなど、知的探求心を高めることや郷土福岡を誇りとする気持ちを育むこと」が重視されている。

このため平成17年度から当センターでは、上記の趣旨を生かし、併せて義務教育学校における

郷土の歴史学習の充実と拡大を図るための具体的施策として、依頼のあった学校へ当センターの学芸員（考古学専門職）を派遣し、出土品に直接触れて歴史を身近に感じると共に古代の生活体験をとおりして歴史認識を深めることを授業の骨格とする出前授業要項を策定、決定して本格的に事業を開始した。

【平成20年度授業プログラム】

A. 小学校

No.	授業名	単位	時間	構成	授業概要
1	大昔の暮らし① 「石と鉄のナイフ」	45分	学級	班	黒曜石製ナイフと鉄製ナイフで切り比べ体験。 道具の発達を体験をとおりして学習
2	大昔の暮らし② 「火起こし」	45分	学級	班	道具を用いて2種類の火起こしを体験。 火が生活に与えた影響と発火技術の変遷を学習。
3	大昔の暮らし③ 「祈りとまじない」	45分 (90分)	学級	班	勾玉を製作体験。 祈りの品を用いて昔の人々の生活と想いを学習。
4	大陸とのまじわり① 「鏡と金属」	45分 (90分)	学級	班	金属製（低温度溶解金属）の鏡を鑄造製作体験。 金属加工等の外来技術をとおりして大陸とのつながりを学習。
5	大陸とのまじわり② 「服装」	45分	学級	班	糸作りや古墳時代・飛鳥時代の衣装を着る体験。 着物の変遷をとおりして大陸とのつながりを学習。
6	大陸とのまじわり③ 「シルクロードと鴻臚館」	45分	学級	班	木簡を製作体験。鴻臚館跡の出土品に触れ、奈良時代の役人の生活や古代におけるアジアとのつながりを学習。

B. 中学校・理科（教科横断授業）

No.	授業名	単位	時間	構成	授業概要
11	金属と溶解	50分 (100分)	学級	班	金属製鏡（低温度溶解金属）の鑄造製作体験。溶解の原理を理解すると共に、酸化（錆の発生）と還元（鉄の生産方法）についても出土品の鉄・銅・金製品を用いて具体的に理解するもの。
12	摩擦と熱	50分	学級	班	道具を用いて2種類の火起こしを体験。 摩擦熱の発生原理を火起こし体験をとおりして理解し、併せて火が生活に与えた影響と発火技術の変遷を学習する。

C. 中学校・歴史

No.	授業名	単位	時間	構成	授業概要
21	金属器の出現	50分	学級	班	黒曜石製ナイフと鉄製ナイフで切り比べ体験。 金属製品の出現が歴史に果たした役割を学習。
22	焼き物の変遷	50分	学級	班	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・磁器の 違いをとおりして生産技術の発達を学習。
23	回転体と文様	50分	学級	班	縄文土器の施文原体を製作体験。 縄文土器の文様が回転体によることを学習。



出前授業風景



出前授業風景

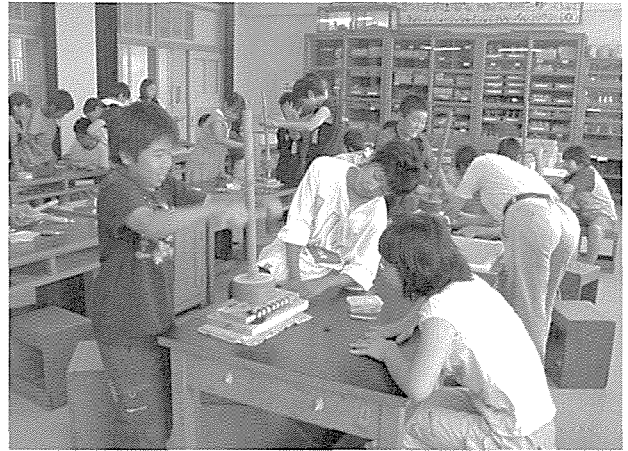
【平成20年度出前授業実施状況】

授業実施日	学校名	受講生徒数	授業プログラム	授業回数	派遣職員
4月11日(金)	壱岐小学校	175	大昔のくらし③「祈りとまじない」	5	瀧本
4月15日(火)	美和台小学校	138	大昔のくらし②「火起こし」	4	瀧本
4月16日(水)	警固小学校	82	大昔のくらし③「祈りとまじない」	3	田上・片多
4月17日(木)	賀茂小学校	98	大陸との交わり①「鏡と金属」	3	力武・瀧本
4月18日(金)	名島小学校	135	大昔のくらし②「火起こし」	4	荒牧・比佐
4月23日(水)	早良小学校	27	大陸との交わり①「鏡と金属」	1	力武・瀧本
4月24日(木)	北崎小学校	20	大陸との交わり①「鏡と金属」	1	瀧本・柳田
4月25日(金)	宮竹小学校	159	大昔のくらし②「火起こし」	4	力武・瀧本
4月30日(水)	鳥飼小学校	115	大昔のくらし②「火起こし」	3	力武・片多
5月1日(木)	愛宕小学校	132	大昔のくらし③「祈りとまじない」	4	荒牧・田上
5月2日(金)	城原小学校	76	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・瀧本・田上・片多
5月7日(水)	舞鶴小学校	25	大陸との交わり①「鏡と金属」	1	力武・瀧本
5月8日(木)	西戸崎小学校	66	大昔のくらし③「祈りとまじない」	2	力武・瀧本・上角
5月9日(金)	板付小学校	112	大昔のくらし②「火起こし」	3	荒牧・田上
5月13日(火)	勝馬小学校	9	大陸との交わり①「鏡と金属」	1	力武・瀧本
5月14日(水)	月隈小学校	69	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	荒牧・田上
5月15日(木)	弥生小学校	74	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・上角
5月16日(金)	西高宮小学校	158	大昔のくらし③「祈りとまじない」	4	荒牧・片多
5月20日(火)	当仁小学校	89	大陸との交わり③「シルクロードと鴻臚館」	3	力武・瀧本
5月21日(水)	有田小学校	90	大陸との交わり③「シルクロードと鴻臚館」	3	力武・瀧本
5月22日(木)	日佐小学校	48	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・瀧本
5月23日(金)	那珂南小学校	83	大陸との交わり①「鏡と金属」	3	力武・荒牧・田上
5月27日(火)	住吉小学校	28	大昔のくらし③「祈りとまじない」	2	力武・上角
5月28日(水)	馬出小学校	43	大昔のくらし③「祈りとまじない」	2	力武・田上
5月29日(木)	和白小学校	128	大昔のくらし③「祈りとまじない」	4	力武・荒牧
5月30日(金)	原小学校	86	大昔のくらし②「火起こし」	3	瀧本・片多
6月3日(火)	小田部小学校	139	大昔のくらし②「火起こし」	4	力武・上角
6月4日(水)	東光小学校	38	大陸との交わり①「鏡と金属」	1	瀧本・片多
6月5日(木)	若久小学校	95	大昔のくらし③「祈りとまじない」	3	力武・上角
6月6日(金)	城南小学校	149	大陸との交わり③「シルクロードと鴻臚館」	4	荒牧・田上
6月10日(火)	筥松小学校	83	大昔のくらし②「火起こし」	3	力武・瀧本
6月11日(水)	四箇田小学校	100	大昔のくらし①「石と鉄のナイフ」	3	力武・上角・片多
6月12日(木)	三苦小学校	124	大昔のくらし②「火起こし」	4	力武・上角
6月13日(金)	有住小学校	43	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	田上・片多
6月17日(火)	若宮小学校	105	大昔のくらし②「火起こし」	3	力武・瀧本
6月18日(水)	高木小学校	53	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・荒牧
6月19日(木)	野多目小学校	123	大昔のくらし③「祈りとまじない」	4	力武・田上・片多
6月20日(金)	三筑小学校	115	大陸との交わり③「シルクロードと鴻臚館」	3	荒牧・上角
6月24日(火)	飯原小学校	63	大陸との交わり③「シルクロードと鴻臚館」	2	力武・上角
6月25日(水)	今津小学校	23	大昔のくらし②「火起こし」	1	柳田・片多
6月25日(火)	松風学級	10	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・瀧本
6月26日(木)	東吉塚小学校	69	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・田上
6月27日(金)	長丘小学校	168	大昔のくらし③「祈りとまじない」	5	瀧本・片多
7月1日(火)	赤坂小学校	50	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・上角
7月2日(水)	三宅小学校	123	大昔のくらし③「祈りとまじない」	4	田上・片多
7月3日(木)	青葉小学校	157	大昔のくらし②「火起こし」	4	力武・瀧本
7月4日(水)	東光中学校	56	縄文時代のくらしと弥生時代のくらし	2	力武・瀧本
7月8日(火)	大池小学校	87	大昔のくらし②「火起こし」	3	力武・上角
7月9日(水)	東箱崎小学校	68	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・瀧本
7月15日(火)	西花畑小学校	104	大昔のくらし②「火起こし」	3	力武・瀧本
9月18日(木)	大名小学校	16	大陸との交わり③「シルクロードと鴻臚館」	1	力武・田上
10月8日(水)	多々良中学校	114	縄文時代のくらしと弥生時代のくらし	3	力武・瀧本
10月9日(木)	多々良中学校	76	縄文時代のくらしと弥生時代のくらし	2	力武・瀧本
10月15日(水)	福岡中央特別支援中学校	11	大昔のくらし	1	力武・瀧本

授業実施日	学校名	受講生徒数	授業プログラム	授業回数	派遣職員
10月17日(金)	金武小学校	63	大昔の暮らし②「火起こし」	2	力武・荒牧
11月11日(火)	小笹小学校	76	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・瀧本
11月13日(木)	小笹小学校	76	大陸との交わり①「鏡と金属」	2	力武・瀧本
11月12日(水)	屋形原特別支援小学校	9	大昔の暮らし②「火起こし」	2	力武・瀧本
11月27日(木)	板付中学校	37	摩擦と熱	1	田上・上角・片多
11月28日(金)	板付中学校	148	摩擦と熱	4	田上・上角・片多
1月28日(水)	今津特別支援中学校	7	鏡と反射	2	力武・瀧本



「石と鉄のナイフ」



「火起こし」



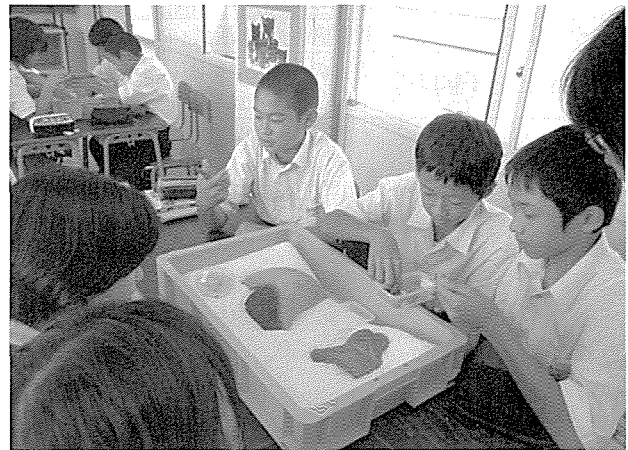
「祈りとまじない」



「鏡と金属」



「シルクロードと鴻臚館」



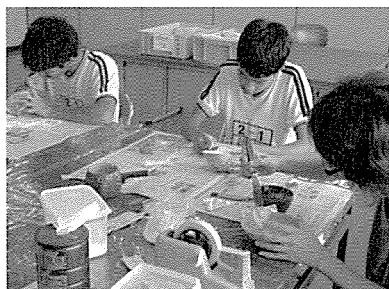
「縄文時代の暮らしと弥生時代の暮らし」

2) 職場体験 (インターンシップ)

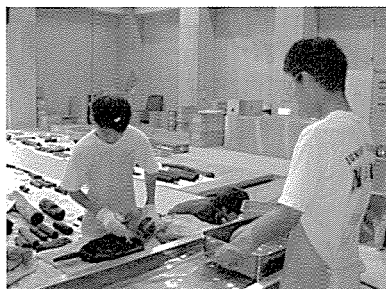
本センターでは、中学生に将来の職業や進路に対する関心や理解を深めてもらうことを目的とし

て、センター業務を体験する職場体験を受け入れている。

実習生学校名	那珂中学校	東光中学校	三筑中学校
実習期間	9月9日～9月11日	9月16日～9月19日	9月17日～9月18日
人数	2名	2名	3名
実習内容	オリエンテーション、施設見学、保存処理作業、発掘調査体験、資料収蔵作業、出土品修復作業、出前授業教材製作、体験発表		



遺物修復作業



木器保存処理作業



発掘調査作業

3) 博物館実習

毎年、市内外の大学からの博物館学芸員(補)資格取得を目的とした博物館実習の依頼に博物館相当施設である本センターは応じている。2008年度も実習生を受け入れて下記のように実施した。

本センターの実習における特徴として、博多駅地下通路に設置されている2箇所の展示施設(Fギャラリー)を実際に用いることにある。実習生は二

つのグループに分かれ、職員の助言を受けながらグループごとに展示計画を立案、検討して、作業を進めていく。実習の最終日前日には、前年度の実習生が展示した作品を撤去した後に、実習生たちだけで展示を行う。展示された作品は、今後一年間、地下通路を通る人たちの目を楽しませるものとなった。

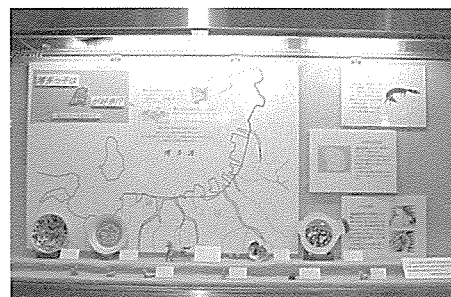
	概要
実習期間	平成20年8月19日(火)～8月30日(土)
実習内容	オリエンテーション、施設見学、資料収蔵管理実習、教育普及実習、遺物保存処理実習、図書資料管理実習、展示実習、実習反省会、講座受講
実習生	10名(西南学院大学国際文化学科、福岡大学歴史学科、筑紫女学院大学日本語日本文学科、福岡女学院大学人間関係学科、福岡女子短期大学文化コミュニケーション学科)

発掘から収蔵活用まで

	実習内容	担当
8月19日(火)	オリエンテーション 発掘から収蔵活用まで 施設説明・見学	力武 力武 力武
8月20日(水)	展示計画Ⅰ 遺物の保存と活用Ⅰ	荒牧 田上
8月21日(木)	教育普及活動活動	瀧本
8月22日(金)	遺物の保存と活用Ⅱ 木製品保存処理実習	田上 田上
8月23日(土)	木製品保存処理実習 展示計画Ⅱ	田上 荒牧
8月26日(火)	展示撤収実習 展示計画Ⅲ	田上 田上
8月27日(水)	写真撮影 展示計画Ⅳ	力武 田上
8月28日(木)	展示計画Ⅴ	田上
8月29日(金)	展示準備 「Fギャラリー」展示	荒牧・上角
8月30日(土)	考古学講座準備 実習成果発表	全職員



実習生展示①「博多の四季」



実習生展示②「博多っ子は鳥が好き
～福岡に広がる動物たち～」

(2) 普及活動

1) 展 示

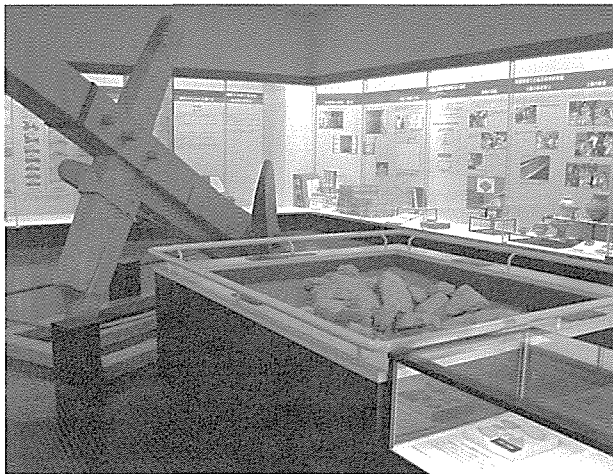
①常設展示

当センターでは「埋蔵文化財の保存・保護」と本市の都市像のひとつである「海と歴史を抱いた文化都市」に則した「弥生以来の海外交易の拠点都市」を展示の主テーマとしている。

第1展示室では、埋蔵文化財の発掘調査から遺物・記録類が収蔵、管理・活用されるまでの一連の流れと、木器・金属器等の科学的保存処理の成果を「埋蔵文化財とは何か」、「埋蔵文化財の保存処理」、「埋蔵文化財の修復」、「発掘現場での保存科学的作業」、「埋蔵文化財の収蔵管理と活用」、「埋蔵文化財と考古学」、「旧石器・縄文時代の福岡」の項目で展示している。木器・金属器等の科学的保存処理の成

果を展示している。

第2展示室では、江戸時代に鎖国されるまで日本の玄関口であり続けた本市の特徴をとりあげ、最も脚光を浴びた「奴国の時代」の弥生時代と国内最大の国際貿易港であった「中世都市博多」の時代に焦点をあて、それぞれ「奴国の拠点集落那珂・比恵遺跡」、「奴国以前」、「大型建物」、「環濠・大溝・条溝」、「墳丘墓」、「争う」、「交流と交易」、「祭る」、「装う」、「まかなう」、「つくる」と「日本の玄関・博多」、「鴻臚館の時代」、「匠」、「海外との交易」、「国内の交易」、「中世博多の情景」、「たしなむ・あそぶ」、「戦乱」の項目でテーマ展示を行っている。



第1展示室



第2展示室

第3展示室は、部門展示室として短期展示を行っており、考古学講座に合わせた企画展、発掘調査

速報展・特別展などを実施している。2006年度は下表のとおり5回の展示会を実施した。

【第3展示室展示会開催一覧】

種 別	名 称	期 間
企画展	「歴史のクロスロード福岡」前期展	平成20年 4月26日～平成20年 8月24日
	「歴史のクロスロード福岡」後期展	平成20年11月 1日～平成21年 3月29日
特別展	「甦る出土遺物—平成19年度保存処理成果—」展	平成20年 8月30日～平成20年10月26日
	「平成20年度市指定文化財資料」展	平成21年 3月 8日～平成21年 3月22日
速報展	元岡・桑原遺跡群発掘調査速報展	平成20年11月 1日～平成20年11月 9日



「歴史のクロスロード福岡」前期展



「歴史のクロスロード福岡」後期展



「甦る出土遺物」展

②館外展示

本センターでは、出土品の活用の一環として、地域・学校等の身近なところで出土品と接する機会を積極的に設け、市民の文化財保護に対する理解が自然と深まるように努めている。

A ま〜ると博物館

市役所・区役所庁内の各フロアや地下鉄駅構内に市内遺跡出土品を展示して市民や内外の来訪者が容易に本市の歴史と接する機会を設けたもの。将来的には各建物全体に展示テーマに即した資料を配置して、施設を一巡することで歴史を身近に感じられるようにするものである。

【設置場所】

市議会議員長・副議長室／教育委員会理事室・総務部長室／地下鉄藤崎駅／博多駅地下通路

B オラガマチ博物館

公民館や小学校に小型展示ケースを設置して遺跡から出土した考古資料を展示するもの。特に展示品は各校区内の遺跡から出土したものを中心とすることにより、生徒や利用者が校区の歴史と容易に接することを可能とした。さらに人々が歴史を身近に感じるにより、ふるさとを誇りに思える環境のひとつを提供するものである。

【設置場所】

三苦小学校／名島小学校／東箱崎小学校／馬出小学校／板付北小学校／野多目小学校／賀茂小学校／城原小学校／西戸崎小学校／四箇田公民館／横浜地区自治会館

C 出前博物館

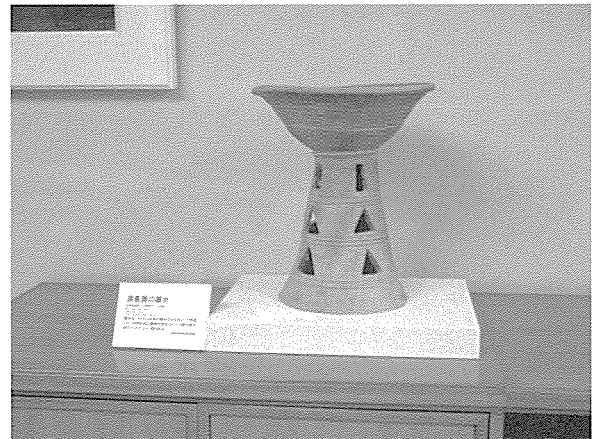
地域商店街や自治会、さらには市内で開かれる各種フェスタ・学会等の主催者と連携して福岡市の歴史理解を深めてもらうことを目的とし、依頼に基づいたテーマに沿った地域短期型の展示会を開催するもの。本センターが企画から展示まで担当し、依頼者はテーマと展示会場の確保だけを担うものである。

【開催者】

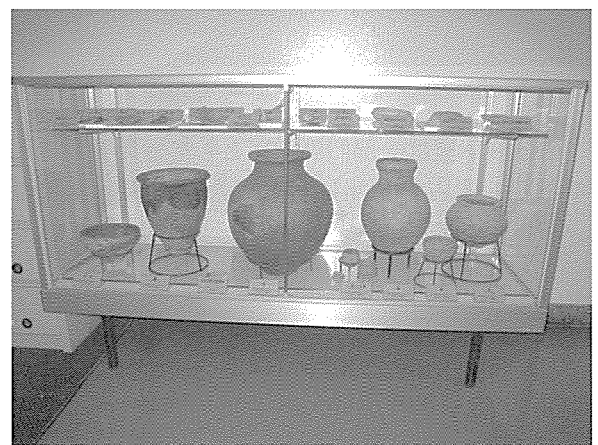
高取商店街



地下鉄藤崎駅構内



市議会議員長室



城原小学校



高取商店街「ミニ博物館」開館式典



高取商店街展示

2) 公開講座

①考古学講座

平成20年度の考古学講座は「歴史のクロスロード福岡」をテーマとし、福岡が歴史の舞台において果たしてきた役割を探るものである。福岡市は古くからアジア大陸との窓口としての役割を担い、古代国家成立後は対外交渉の拠点都市として発展し、わが国の歴史のなかで重要な位置を占めてきた。その福岡市について最新の研究結果をもとに歴史分野の第一人者を招いて6回の講座を開催した。

②発掘調査速報講座

発掘調査速報講座は、平成20年度の発掘調査の中で重要と思われるものについて速報講演を実施するものである。市内遺跡調査総まくりとして計1回の講演を行った。

③考古学特別講座

考古学特別講座は、当センターの平成19年度保存処理業務の成果を主体とした「甦る出土遺物」と福岡市各区の歴史と主要な遺跡を紹介する計8回の特別講座を実施した。

【考古学講座一覧】

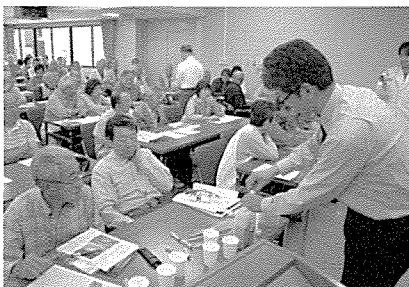
	開催日	講演題	講師	受講者数
第1回	平成20年 5月17日(土)	土器に見る農耕の始まりー土器に残る痕跡①ー	熊本大学 小畑 弘己氏	168名
第2回	平成20年 6月21日(土)	弥生時代の開始を知るー土器に残る痕跡②ー	国立歴史民俗博物館 藤尾 慎一郎氏	142名
第3回	平成20年 7月19日(土)	時を語る木製品ー年輪年代測定ー	奈良文化財研究所 光谷 拓実氏	146名
第4回	平成20年 9月20日(土)	磐井と大和王権	大阪府立弥生文化博物館 金関 恕氏	210名
第5回	平成20年10月18日(土)	鴻臚館と遣唐使	奈良大学 東野 治之氏	157名
第6回	平成20年11月15日(土)	博多町衆と豊臣秀吉	九州大学 佐伯 弘次氏	123名

【発掘調査速報講座一覧】

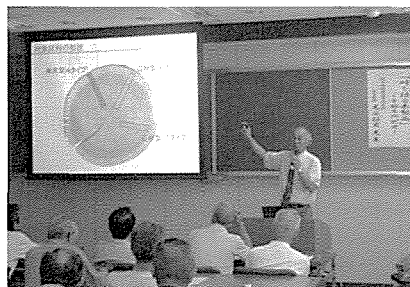
	開催日	講演題	講師	受講者数
第1回	平成21年 3月14日(土)	調査総まくり ー平成20年度市域内遺跡調査からー	福岡市教育委員会 常松 幹雄	81名

【考古学特別講座一覧】

	開催日	講演題	講師	受講者数
第1回	平成20年 5月10日(土)	東区の歴史と遺跡～名子遺跡を中心として～	福岡市教育委員会 今井 隆博	114名
第2回	平成20年 6月 7日(土)	博多区の歴史と遺跡～那珂・比恵遺跡を中心として～	福岡市教育委員会 森本 幹彦	112名
第3回	平成20年 7月 5日(土)	中央区の歴史と遺跡～古墳時代の様相～	福岡市教育委員会 赤坂 亨	82名
第4回	平成20年 8月30日(土)	甦る出土遺物～平成19年度保存処理成果から～	福岡市教育委員会 田上 勇一郎	100名
第5回	平成20年10月 4日(土)	城南区の歴史と遺跡～京ノ隈経塚を中心として～	福岡市教育委員会 木下 博文	66名
第6回	平成20年11月 1日(土)	南区の歴史と遺跡～野多目遺跡と稲作～	福岡市教育委員会 山崎 純男	91名
第7回	平成20年12月 6日(土)	早良区の歴史と遺跡～群集墳の形成～	福岡市教育委員会 藏富士 寛	79名
第8回	平成21年 1月10日(土)	西区の歴史と遺跡～今宿五郎江遺跡を中心として～	福岡市教育委員会 阿部 泰之	83名



『考古学講座. 1』



『考古学講座. 3』



『考古学講座. 4』



『考古学講座. 5』



『特別講座. 4』 展示説明



『特別講座. 1』

3) 資料利用

市民・小中学校・各種博物館・大学などの研究機関・出版社・報道関係などの利用希望に対して、考古資料や記録資料を提供している。資料利用は館内利用と館外利用（貸出）とに分かれる。

近年において考古資料の利用点数が高水準で推移しているのは、福岡市史編纂に伴う骨類の調査が要因である。貸出期間が1年以上のものは長期貸出、未満のものは短期貸出として区分している。

【館内利用】

利用種類	件数	点数
考古資料	110	14,194
写真・記録類	12	120
図書	304	1,869
計	426	16,183

【館外利用】

貸出種類	件数	点数		
		考古資料	写真他	合計
長期貸出	38			
	92	2,232	24	2,256
短期貸出	130	1,080	441	1,521
計		3,079	598	3,345

4) 施設の利用

利用日	利用者	利用内容	人数	利用施設
平成20年 4月19日(土)	アジア文化財協力会	協力総会	5名	研修室
平成20年 4月27日(土)	東アジア考古学会	例会	20名	研修室
平成20年 7月20日(日)	東アジア考古学会	例会	20名	研修室
平成20年 8月 2日(土)	アジア鑄造技術史学会実行委員会	例会準備	10名	研修室
平成20年 9月21日(日)	アジア鑄造技術史学会	例会	65名	研修室
平成20年10月25日(土)	東アジア考古学会	例会	15名	会議室
平成20年10月25日(土)	雀居遺跡出土土器資料討論会	資料検討	15名	研修室

利用日	利用者	利用内容	人数	利用施設
平成20年10月26日(日)	雀居遺跡出土土器資料討論会	資料検討	7名	研修室
平成20年11月21日(金)	鴻臚館跡調査研究指導委員会	指導委員会	30名	研修室
平成21年 1月16日(金)	福岡金属遺物談話会	例会	20名	研修室
平成21年 1月31日(土)	木の文化研究会	例会	6名	会議室
平成21年 2月21日(土)	東アジア考古学会	例会	35名	研修室
平成21年 3月 7日(土)	木の文化研究会	例会	30名	研修室
平成21年 3月 8日(日)	木の文化研究会	例会	40名	研修室

5) 図書の収蔵と閲覧

- ①平成20年度図書受入状況 計 3,535冊 (一般 3,297・雑誌 238)
 内訳：購入 158冊 (一般 16・雑誌 142)・受贈 3,377冊 (一般 3,281・雑誌 96)
- ②平成20年度廃棄蔵書数 0冊
- ③平成20年度未蔵書数 65,416冊 (購入 9,069・受贈 56,347)

6) 団体見学

見学日	団体名	人数
平成20年 4月25日(金)	福岡市立西花畑小学校	103名
平成20年 5月 7日(水)	福岡市立三筑小学校	111名
平成20年 5月13日(火)	福岡市立堤小学校	102名
平成20年 5月17日(土)	熊本大学考古学研究	20名
平成20年 5月21日(水)	横浜万葉を学ぶ会	20名
平成20年 5月22日(木)	福岡教育大学附属福岡小学校	87名
平成20年 5月23日(金)	山口県周南市立和田小学校	20名
平成20年 5月23日(金)	福岡市立東吉塚小学校	69名
平成20年 5月25日(金)	別府大学	20名
平成20年 5月28日(水)	山東省博物館	9名
平成20年 6月10日(火)	福岡市立春住小学校	30名
平成20年 6月11日(水)	福岡市立春住小学校	30名
平成20年 6月18日(水)	香蘭女子短期大学	7名
平成20年 6月20日(金)	福岡市立板付小学校	21名
平成20年 6月24日(火)	柳川市立昭代第二小学校	6名
平成20年 6月25日(水)	香蘭女子短期大学	8名
平成20年 7月 5日(土)	古代史学の会・四国	12名
平成20年 7月20日(日)	南区歩こう会	19名
平成20年 7月27日(日)	城山の会	6名
平成20年 8月 7日(木)	大野城子ども考古学	24名
平成20年 8月26日(火)	九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所	7名

見学日	団体名	人数
平成20年 9月 4日(木)	龍谷大学	6名
平成20年 9月19日(金)	福岡市立板付小学校	105名
平成20年 9月19日(金)	國學院大学	4名
平成20年 9月26日(金)	新潟市役所	6名
平成20年 9月28日(日)	名古屋大学考古学研究室	14名
平成20年10月14日(火)	福岡市立和白東小学校	104名
平成20年10月15日(水)	福岡市立城南小学校	160名
平成20年10月15日(水)	博多区食生活改善推進員協議会	15名
平成20年11月 6日(木)	柏原公民館歴史グループ	20名
平成20年11月 9日(日)	菜穀火俳句会	35名
平成20年11月12日(水)	久米設計九州支社	8名
平成20年11月18日(火)	那珂南校区衛生連合会	72名
平成20年11月19日(水)	久留米文化財サポーター	7名
平成20年11月22日(土)	福岡市立高木小学校	6名
平成20年11月23日(日)	別府大学	4名
平成20年11月27日(木)	福岡市立板付中学校	35名
平成20年11月28日(金)	福岡市立板付中学校	142名
平成21年 2月 5日(木)	東亜細亜文化財研究所	14名
平成21年 2月25日(水)	福岡歴史探訪ガイド	25名
平成21年 3月15日(日)	熊本県菊池市教育委員会	13名
平成21年 3月24日(火)	大阪府高齢者大学歴史考古学科	31名

7) 刊行物

- 『福岡市埋蔵文化財センター年報』第27号 平成19(2007)年度 A4版38ページ。2009年3月31日発行。文化財関係機関・図書館などに配布。
- 『見学のしおり』(展示案内パンフレット) B4版3つ折り6ページ。入館者に無料配布。
- 『マイコレ』(児童向け収蔵品紹介) 変形A4版3つ折り6ページ。児童に無料配布。
- 『2009年度講座案内』(チラシ) A4版2ページ。文化財関係機関・図書館などや入館者に無料配布。

平成20(2008)年度資料貸出等一覧

件数	区分	申請者	資料名	点数				貸出日	備考
				遺物	写真	他	計		
1	A	福岡市博物館学芸課	城ノ原他	1232	0	0	1232	20080401	常設展示
2	A	国立歴史民俗博物館	板付・有田・三筑	25	0	0	25	20080401	常設展示
3	A	大阪府立弥生文化博物館	今山・藤崎・有田他	24	0	0	24	20080401	常設展示
4	A	広島県立歴史博物館	博多陶磁器	6	0	0	6	20080401	常設展示
5	A	焼津市歴史民俗資料館	藤崎58号壺棺	2	0	0	2	20080401	常設展示
6	A	新宮町教育委員会	石丸古川・飯氏ゾウサ土器	3	0	0	3	20080401	町立歴史資料館内常設展示
7	A	リコーテクノシステムズ(株)九州支社	比恵25次土器	3	0	0	3	20080401	ロビー常設展示
8	A	グランドホームサンケア和白	唐原土器・展示台	6	0	4	10	20080401	ロビー常設展示
9	A	粕屋町教育委員会	戸原麦尾六花鏡・陶磁器	44	0	0	44	20080401	町立歴史資料館内常設展示
10	A	菊池市教育委員会	博多人骨・陶磁器他	150	0	0	150	20080401	菊池神社歴史館内常設展示
11	A	東京国立博物館	鴻臚館陶磁器	23	0	0	23	20080401	平成館考古展示室常設展示
12	A	市立賀茂小学校	鶴町土器・石器	36	0	0	36	20080401	校内常設展示
13	A	市立馬出小学校	箱崎馬出土器	6	0	0	6	20080401	校内常設展示
14	A・B・C	市立三苫小学校	三苫土器・石器・ケース	69	3	2	74	20080401	校内常設展示
15	A	市立野多目小学校	野多目土器	47	0	0	47	20080401	校内常設展示
16	A	市立名島小学校	蒲田・海の中道他	28	0	0	28	20080401	校内常設展示
17	A	市立東箱崎小学校	箱崎・板付他	7	0	0	7	20080401	校内常設展示
18	A	市立城原小学校	拾六町ツイジ	25	0	0	25	20080401	校内常設展示
19	A	市立板付北小学校	板付土器	10	0	0	10	20080401	校内常設展示
19	A	私立西戸崎小学校	海の中道製塩土器他・展示台	15	7	2	22	20081104	校内常設展示
20	A	博多区総務部振興課	博多土器・陶磁器他	34			34	20080401	まちかど文化ひろば「えふギャラリー」展示
21	A	福岡市交通局	藤崎3次壺棺	5	0	0	5	20080401	藤崎駅常設展示
22	A	文化財管理課(鴻臚館展示館)	鴻臚館跡出土陶磁器など	132	0	0	132	20080401	鴻臚館展示館
23	A	文化財管理課(金隈展示館)	金隈遺跡出土土器	61	0	0	61	20080401	金隈遺跡展示館
24	A	文化財管理課(野方遺跡展示館)	野方遺跡出土遺物	42	0	0	42	20080401	野方遺跡展示館
25	A	文化財管理課(板付弥生ムラ)	板付遺跡出土遺物	71	0	0	71	20080401	板付遺跡展示館
26	A	群馬県立歴史博物館	藤崎50号壺棺	2	0	0	2	20080401	館内常設展示
27	A	神戸市教育委員会	有田64次壺棺	3	0	0	3	20080401	埋蔵文化財センター内常設展示
28	A	高口箔屋ビル	博多126次白磁他	7	0	0	7	20080401	エントランス常設展示
29	A	市立市川考古博物館	西新町2次12号壺棺	2	0	0	2	20080401	館内常設展示
30	A	今宿横浜地区すみよい町づくりの会	今山石斧・土器	18	0	0	18	20080401	自治会館内常設展示
31	A	古賀市教育委員会	藤崎2次40号壺棺他	2	0	1	3	20080401	古賀市歴史資料館常設展示
32	A	東北歴史博物館	有田7次弥生壺	1	0	0	1	20080401	館内常設展示
33	A	西南学院大学	羽根戸原C須恵器	20	0	0	20	20080401	博物館実習教材
34	A	福岡市博物館管理課	藤崎・徳永他土器	10	0	0	10	20080401	博物館体験学習
35	A	福岡市四箇田公民館	四箇田第2次精製土器・十字型石器など	8	0	0	8	20070401	館内常設展示
36	A	議会事務局 総務課	広石古墳群出土長頸壺ほか	2	0	0	2	20080401	議長室・副議長室に展示
37	A	福岡市教育委員会(総務課)	比恵84次壺・クエゾノ遺跡有蓋高坏と蓋	2	0	0	2	20070704	教育長室
38	A	福岡市教育委員会総務課	鴻臚館出土品	1	0	0	1	20070704	教育次長室
39	A	茨城県立歴史館	吉武高木遺跡・藤崎遺跡出土壺棺	4			4	20080401	館内常設展示
40	A	九州国立博物館	雀居遺跡出土案など	55			55	20080401	常設展示
41	A	福岡市博物館学芸課	藤崎遺跡出土壺形土器ほか	40			40	20080404	平成20年度部門別展「ココロとカタチ」
42	B	株式会社ベネッセコーポレーション	板付遺跡出土壺		1		1	20080504	社会科教材
43	B	株式会社ベネッセコーポレーション	板付遺跡出土土器		1		1	20080504	社会科教材
44	B	個人	博多遺跡群出土礎石模造品実測図他	2	1		3	20080422	日韓水中考古学術交流での発表及び資料集
45	B	西都原考古博物館	木器保存処理に関する写真		21		21	20080416	特別展「木と共に生きた人々」
46	D	学習研究社	板付遺跡出土石包丁		1		1	-	社会科教材
47	B	(株)宮帯出版社	博多遺跡群出土メダイ・十字架鋳型ほか		2		2	20080509	【牛角軍団】
48	B	個人	藤崎遺跡出土三角線神車馬鏡		1		1	20080508	【考古学雑誌】第92巻第3号
49	B	個人	井尻B遺跡		22		22	20080513	講義資料
50	C	福岡市文化財部	鴻臚館跡実測図面			6	6	20080513	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
51	B	荒神谷博物館	吉武高木遺跡出土細形銅矛		3		3	20080527	平成20年度特別展の図録・パネル等
52	B	株式会社 スタジオ三十三	上月隈遺跡出土銅剣		2		2	20080523	日本文化財科学会第25回大会ポスターセッション
53	D	(株)雄山閣	那珂久平遺跡出土鋤		2		2	-	【季刊考古学】104号
54	D	大分県教育庁埋蔵文化財センター	博多遺跡群出土メダイ・十字架鋳型ほか		3		3	-	平成20年度展示「よみがえる大分の遺跡展」
55	A	福岡市文化財部	今宿大塚古墳出土埴輪		5		5	20080612	遺跡発掘調査現地説明会
56	B	鳥取市青谷上寺地遺跡展示館	拾六町ツイジ遺跡出土腕輪		1		1	20080620	平成20年度展示「弥生時代の漆製品」(パネル展示)
57	A・B	大韓民国釜山博物館	板付遺跡出土丹塗磨研土器ほか	21	21		42	20080521	開館30周年記念国際交流展「韓日交流七千年展」
57	A	福岡市博物館学芸課	鴻臚館跡出土瓦他	9			9	20080521	平成20年度部門別展「文字瓦は語る」
58	A	大分県教育庁埋蔵文化財センター	博多遺跡群出土メダイ・十字架鋳型ほか	3			3	20080715	平成20年度展示「よみがえる大分の遺跡展」
59	B	朝日新聞社	博多遺跡群出土品		1		1	20080619	東アジアの古代文化
60	A・C	福岡市文化財部	吉武遺跡出土品	13		6	19	20080621	本収蔵
61	D	学習研究社	板付遺跡出土石包丁		1		1	-	社会科教材
62	A・C	福岡市博物館学芸課	鋤崎古墳出土埴輪他	90		3	93	20080709	平成20年度部門別展「墳墓の山」
63	D	個人	老司古墳出土埴輪		3		3	-	【古文化談叢】
64	B	福岡市文化財部	有田遺跡他		8		8	20080717	文化財部ホームページ作成
65	A・B	前原市教育委員会	桑原金原古墳出土雲雲文鏡他	85	29		114	20081003	平成20年度秋期特別展「玄界灘を制したのもの」
66	A・B	大韓民国釜山博物館	板付遺跡出土丹塗磨研土器他	21	21		42	20080909	釜山博物館開館30周年記念国際交流展
67	A・B	奈良文化財研究所飛鳥資料館	鴻臚館跡出土唐三彩盤他	2	4	1	7	20080928	平成20年度秋期特別展「まほろしの唐代精華」
68	A	西都原考古博物館	博多遺跡群出土銅鏡	8			8	20080903	平成20年度テーマ展示「大型鏡」
69	A	福岡市文化財部	板付遺跡出土土器・石器	12			12	20080716	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成

註) A: 遺物貸出、B: 写真貸出、C: その他の貸出、D: 図面・写真等の使用、E: 遺物撮影

件数	区分	申請者	資料名	点数				貸出日	備考
				遺物	写真	他	計		
70	C	NPO法人	福岡市埋蔵文化財調査報告書			2	2	20080801	発表会
71	A・B	福岡市博物館学芸課	博多遺跡出土青磁碗他	127	7		134	20080820	平成20年度部門別展「日明貿易と博多」
72	A	春日市奴国の丘歴史資料館	比恵遺跡群出土埴塼	1			1	20080902	10周年記念企画展「奴国の生産遺跡展」
73	E	西都原考古博物館	博多遺跡群出土銅銭			8	8	20080905	平成20年度テーマ展示「大型銭」
74	B	株式会社 山川出版社	板付遺跡出土土器		4		4	20080814	社会科教材
75	B	社団法人 日本陶磁協会	博多遺跡出土高麗青磁碗他		3		3	20080814	「陶説」9月号(666号)
76	D	株式会社大塚製菓工場大塚薬報編集室	橋本一丁田遺跡出土浅鉢形土器		1		1	-	平成20年10月号「大塚薬報」
77	B	株式会社大塚製菓工場大塚薬報編集室	雀居遺跡出土土器		1		1	20080823	平成20年10月号「大塚薬報」
78	E	財団法人 今日庵 茶道資料館	博多遺跡群出土天目茶碗ほか			11	11	20080902	平成20年度秋期特別展「鎌倉時代の喫茶文化」図録
79	A	財団法人 今日庵 茶道資料館	博多遺跡群出土天目茶碗ほか	11			11	20080827	平成20年度秋期特別展「鎌倉時代の喫茶文化」
80	B	粕屋町教育委員会	戸原麦尾遺跡出土絵馬他		3		3	20080902	「糟屋の祈り」糟屋地区文化財担当者会編
81	B	福岡市文化財部	有田遺跡出土土器ほか	135			135	20080830	福岡市市史編さん
82	A	福岡市博物館学芸課	博多遺跡群出土クジラ	96			96	20080917	平成20年度部門別展「土の中のクジラ」
83	B	福岡県おおい町立郷土資料館	海の中道遺跡出土製塩土器ほか			2	2	20080911	特別展「若狭の塩づくり-おおい町発掘五十年史-」
84	B	個人	比恵遺跡群ほか		20		20	20080911	第57回埋蔵文化財研究集会「井戸再考」
85	B	財団法人 今日庵 茶道資料館	博多遺跡群		3		3	20080912	平成20年度秋期特別展「鎌倉時代の喫茶文化」図録
86	B	ニューサイエンス社	博多遺跡群出土陶磁器		2		2	20081014	『月刊 考古学ジャーナル』2008年11月号
87	A	福岡市博物館学芸課	今宿大塚古墳出土埴輪	1			1	20081001	平成20年度部門別展「墳墓の山」
88	B	(株)フォト・オリジナル	拾六町ツツジ遺跡出土又鋤		1		1	20080926	『古代文明 ビジュアルファイル』92号
89	B	(株)フォト・オリジナル	板付遺跡出土土包丁		1		1	20080926	社会科教材
90	A・B	大阪府立弥生文化博物館	金武古墳群出土龍紋小環頭太刀	1	2		3	20090116	平成20年度冬期特別展「倭人がみた龍」
91	B・D	福岡市東区市民センター	多々良込田遺跡ほか		7		7	20081010	「名島・多々良地区の歴史ガイドマップ」
92	B	株式会社 文溪堂	雑餉隈遺跡出土石剣		1		1	20081108	社会科教材
93	C	KODC秋祭り実行委員	火起こし道具10セット			10	10	20081025	KODC秋祭り
94	C	個人	大原D遺跡パネル他			6	6	20081029	今津校区ふれあい文化祭パネル展示
95	B	財団法人 広島市文化財団	板付遺跡出土土器		1		1	20081108	財団法人広島市文化財団のホームページ
96	B	鳥取県教育委員会妻木晩田遺跡事務所	上月隈遺跡出土銅剣		2		2	20081119	シンポジウム「弥生時代の色彩世界」
97	E	(株)福岡放送	柏原遺跡出土土器		1		1	20081105	めんたいワイド・ニュース「グルメファイル・スーパ」
98	D	個人	老司古墳出土鉄鏡			1	1	-	「史林」
99	B	株式会社 アドリブ	藤崎遺跡出土三角縁神獣車馬鏡		2		2	20081120	「面白いほどよくわかる古代史」
100	D	有限会社 ケイネットワーク	博多遺跡群出土白磁水注ほか		4		4	-	福岡タワー展望室内 映像制作資料
101	B	有限会社 ケイネットワーク	博多遺跡群出土高麗青磁碗ほか		10		10	20081112	福岡タワー展望室内 DVD制作資料
102	A	福岡市博物館学芸課	雑餉隈遺跡出土石剣ほか	50			50	20081126	平成20年度部門別展「悼みの考古学」
103	D	学習研究社	板付遺跡出土土包丁		1		1	-	社会科教材
104	A	福岡市文化財部	那珂遺跡群出土線刻絵画壺棺	1			1	20081114	公開講座
105	B	福岡市文化財部	博多遺跡群		24		24	20081120	講演
106	B・C	福岡市文化財部	姪浜遺跡		1	1	2	20081127	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
107	B・C	福岡市文化財部	鴻臚館跡		6	3	9	20081209	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
108	B	福岡市文化財部	那珂遺跡群出土壺棺	1			1	20081213	公開講座
109	A	福岡市文化財部	鴻臚館跡出土瓦	49			49	20081213	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
110	B	有限会社 評価問題研究所	板付遺跡出土土器		1		1	20081217	社会科教材
111	A	兵庫陶芸美術館	博多遺跡群出土青磁碗ほか	15			15	-	特別展「陶片は語る」
112	A・B	小郡市教育委員会	雑餉隈遺跡出土石剣ほか	7	2		9	20090212	平成20年度特別展「たかひのはじまりと石製武器」
113	A・B	福岡市博物館学芸課	鍋崎古墳出土埴輪他	49	5		54	20090129	平成20年度部門別展「なるほど埴輪展」
114	C	個人	博多遺跡群出土下駄の樹種同定結果			1	1	-	「考古学論叢」第24冊
115	B	株式会社 ベネッセコーポレーション	板付遺跡出土壺		1		1	20090127	社会科教材
116	A・C	福岡市文化財部	鴻臚館跡	10		2	12	20090123	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
117	D	株式会社 ナック・ビジュアル	諸岡遺跡出土貝輪(沖縄県立博物館所有)			1	1	20090203	琉球朝日放送「古琉球とルーツを探る」
118	B	鳥取県埋蔵文化財センター	西新町遺跡出土土器		1		1	20090108	「古代出雲文化展」
119	E	読売新聞西部本社	香椎B遺跡出土土器器灯明皿ほか			2	2	20090127	広告特集「エネルギー新世紀」(仮)
120	D	株式会社 ベネッセコーポレーション	板付遺跡出土壺		1		1	-	社会科教材
121	B	株式会社 学生社	大塚遺跡ほか		11		11	20090203	「魏志倭人伝の考古学」(仮)
122	C	福岡市文化財部	金隈遺跡解説ビデオテープほか			2	2	20090206	金隈遺跡展示館
123	B	国立歴史民族博物館	橋本一丁田遺跡出土浅鉢形土器		1		1	20090213	「新弥生時代のはじまり」第4巻
124	B	福岡市文化財部	福岡城跡		49		49	20090225	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
125	A・B	滋賀県立安土城考古博物館	吉武高木遺跡出土土器	82	27		109	20090416	平成21年度春期特別展「大型建物から見えてくるもの」
126	B	福岡市文化財部	今山遺跡		1		1	20090311	福岡市埋蔵文化財調査報告書作成
127	A・B	日田市立博物館	博多遺跡群出土糶羽口ほか	17	4		21	20090409	企画展「昔と今の鍛冶屋さん」
128	B	有限会社 海鳥社	鴻臚館跡北館南斜面の石垣ほか		8		8	20090310	「アクロス福岡文化誌3 古代の福岡」
129	D	有限会社 海鳥社	西新町遺跡出土壺形土器		6		6	-	「アクロス福岡文化誌3 古代の福岡」
130	D	大塚歴史博物館	比恵遺跡群ほか		3		3	-	平成21年度特集展示「難波遺跡」写真パネル
131	B	市民参加の古代官道調査	高畑遺跡ほか		4		4	20090227	事業報告書作成
132	A・B	福岡市博物館学芸課	吉武遺跡出土須恵器	23	8		31	20090331	平成21年度部門別展「室見が丘の古墳群Ⅰ」
133	A・B	九州歴史資料館	西新町遺跡出土遺物ほか	77	27		104	20090331	平成21年度企画展「西新町遺跡展」
134	B	街道の城下町文化振興実行委員会	藤崎遺跡ほか		8		8	20090314	地域歴史マップ
135	A	高取商店街振興組合	藤崎遺跡出土壺ほか	30			30	20090224	高取ミニ博物館
136	B	中央大学通信教育部	四箇遺跡出土浅鉢ほか		2		2	20090326	社会科教材
137	A	福岡市博物館学芸課	博多遺跡出土双六ほか	55			55	20090331	平成21年度部門別展「平安時代の福岡 和魂漢才」
138	B	(株)とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センター	板付遺跡出土土器		1		1	20090331	「ふるさととちぎの考古学」

註) A: 遺物貸出、B: 写真貸出、C: その他の貸出、D: 図面・写真等の使用、E: 遺物撮影

3. 保存処理

(1) はじめに

当センターでは昭和57年の開館以来、市内出土埋蔵文化財のうち腐蝕や劣化により資料としての取り扱いや、通常の保管が困難なもの（主に対象となるのは木製品と金属製品）について、保存のための科学的処置を講じている。当初は直接的な処置のための限られた機器で作業を行ってきたが、平成11年度の増築により事前調査機器や大型の処理装置などが導入され、幅広い資料に対応が可能となっている。増築前後の施設の内容については、年報の第15号（増築前）、18号（増築後）をそれぞれ参照されたい。

(2) 出土木製品（有機物）

1) 処理の概要

今年度処理を行ったのは36遺跡877点で、詳細は一覧表の通りである。この内、元岡・桑原遺跡群12・20次、下月隈C遺跡8・9次出土の120点は国庫補助事業によるものである。処理法は資料の形態、材質、劣化度などを考慮し、PEG含浸法を中心に主に3つの処理法を用いている。PEG含浸法は一般的な小型・中型の木製品、糖アルコール含浸法は、PEG含浸法では処理が困難な漆器や墨書の施された木筒類、或いは展示など活用スケジュールに合わせて短期間で処理が必要な資料、真空凍結乾燥法はPEGを100%含浸すると、重くて取り扱いが困難な大型材や変形を期す恐れのある広葉樹芯持ち材というように、資料の種類に応じて使い分けをしている。

2) 処理工程

各処理法による作業は、資料の洗浄、処理前の写真撮影、処理カードの作成といった共通作業以降、次のような工程で行った。

なお処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

◆ PEG含浸法（821点）

①資料の梱包…不織布で梱包し、メッシュのコンテナなどに納める。

②PEG含浸…専用の含浸装置に梱包した資料を入れ、注水、加熱（60℃）。温度が安定したら初期濃度20%より置換開始。PEGは処理槽の容量から算出した計画表に基づき、日々適量を投入し（写真W-1）、同時に水分蒸発により濃度上昇を図った。濃度は一週間に一度溶液を採取し、溶液の重量と水分蒸発後の重量比較により算出した。今年度は3槽の取り上げを行っている。3m槽（398点）は6月後半に置換を開始し、約7ヶ月後の2月初旬に100%に至り、その後更に数週間含浸。2m槽（299点）は平成19年11月半ばに置換を開始し、約11ヶ月後の10月後半に100%に至り、その後更に1ヶ月間含浸。6m槽（121点）は、平成18年12月半ばに置換を開始し、約19ヶ月後の7月後半に100%に至り、その後更に1ヶ月間含浸。また、重要遺物3点は不織布に梱包せず、予備槽で個別に状態を見ながら処理を行った。平成19年12月より置換を開始し、11ヶ月後の10月後半に100%に至り、その後更に1ヶ月間含浸した。



W-1 PEG投入作業

③取り上げ…溶液から資料を取り出した後、温水で表面を洗浄し、自然乾燥（PEGの固化）。

- ④処理後観察…変形、破損の有無を点検し、処理前と比較した上で処理カードに記入。
- ⑤脱色及び表面処理…湯煎したアルコールによる表面洗浄。
- ⑥修復（破損資料のみ）…エポシキ系接着剤による折損部の接合、エポシキ系接着剤にマイクロバルーンを混入した材料による、欠損の復元。

◆真空凍結乾燥法

- ①予備凍結…資料を大型凍結乾燥機に入れ、装置を作動。約-60℃下で凍結させる。
- ②乾燥…資料内の水分が十分に凝結したら、チャンバーを真空にし昇華による乾燥を図る。

◆糖アルコール（ラクチトール）含浸法（56点）

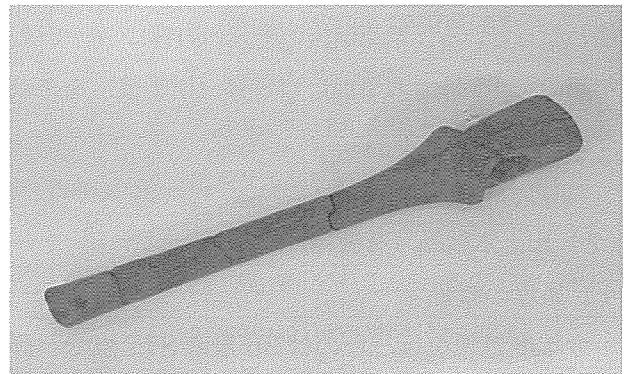
- ①溶液の準備…容器に初期濃度約30%のラクチトール水溶液を作製。恒温乾燥機を80℃に設定し、加熱。
- ②ラクチトール含浸…資料を溶液に浸し、資料が溶液の底に沈むことでその濃度が含浸されたと判断する。蓋をずらして水分蒸発により溶液濃度の上昇を図り、資料が浮いてきたら再度蓋を閉める。80℃での限界濃度（約80%）まで含浸させる。期間は小型資料で10日～2週間。
- ③結晶化…資料を溶液から取り出し、表面を温湯で洗浄後、余分な水分をきれいに拭き取る。表面にラクチトールの粉末をまぶし、ラクチトール結晶を核として結晶化を資料内部まで進め固化させる。資料は50℃に設定した恒温乾燥機に入れるが、この際、温風が資料に直接あたらないように注意する（過乾燥の防止）。結晶化の時間は他施設での実績や経験的なもので判断している（小型資料で1週間～10日）。
- ④洗浄…表面に固着しているラクチトールの結晶を筆や竹串で軽く除去した後、水で洗浄。
- ⑤乾燥…再び50℃の乾燥機で乾燥させる。

3) 処理木製品紹介

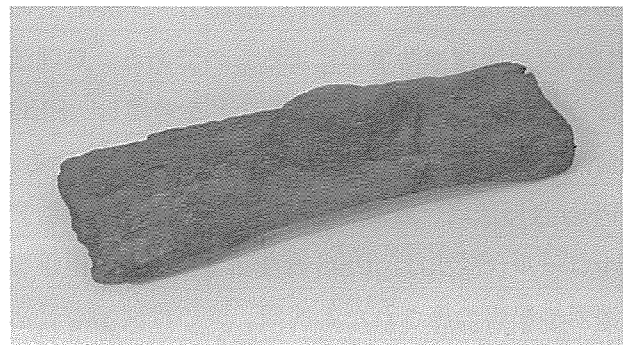
今年度処理を行った西区兵庫遺跡1次、西区元岡・桑原遺跡群12・20次の木器を紹介する。

◇弥生時代前期の貯木場（兵庫遺跡1次）

兵庫遺跡は室見川中流西岸に位置し、早良平野の沖積地の中に残る微高地上に広がっている。調査により弥生時代前期末から中期初頭の比較的短期間に営まれた集落遺跡であることが判明した。微高地が谷に落ちていく傾斜地に掘り込まれた土坑からは大型蛤刃石斧柄の製品（W-2）、諸手鋤（W-3）やエブリの未製品、木器素材が出土した。木器を水漬けにしておく穴と考えられる。木器を水漬けにする理由としてヒビや変形を防ぐため、加工を容易にするため等が考えられている。



W-2 大型蛤刃石斧柄

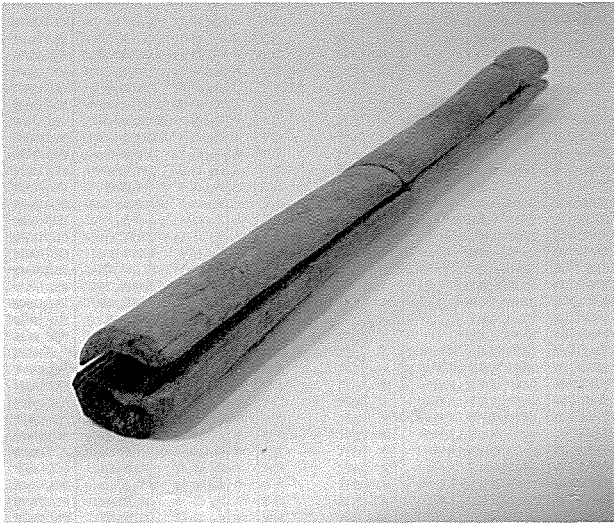


W-3 諸手鋤未製品

◇古代の製鉄（元岡・桑原遺跡群12次）

元岡・桑原遺跡群は糸島半島の東側付け根に位置する遺跡群で、九州大学移転に伴い1995年より大規模な発掘調査がおこなわれている。12次調査地点では奈良時代の製鉄炉26基が発見された。その南側の谷からは半裁した木の内側を削りぬき、合わせた管状の木製品が10点ほど出土している。長さ60cm、径4～6cmの大きさで、一方が焦げていた。これらは炉の温度を上げるために空気を送り込むための送風管である。木製の送風管の出

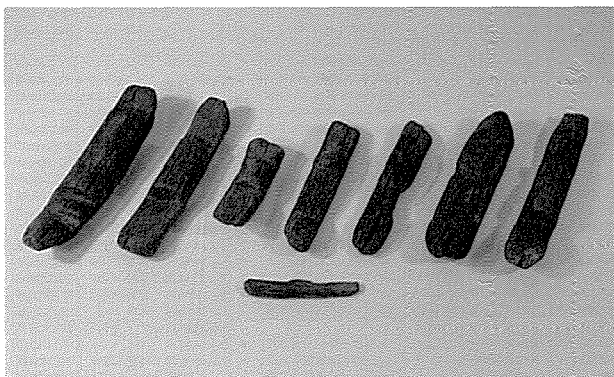
土は珍しく、元岡・桑原遺跡群の他の地点では土製の送風管が出土している。



W-4 木製送風管

◇古代の木製祭祀具（元岡・桑原遺跡群 20次）

元岡・桑原遺跡群 20次調査では、古墳時代の集落と奈良時代の建物群や池状遺構が調査された。池状遺構は谷を幅約3m、長さ約14mの築堤によりせき止めたもので、長さ約35m、幅約20m、深さ50～80cmの規模である。この池状遺構からは大宝元年（701年）と延暦4年（785年）の紀年銘木簡をはじめ、多くの木製品が出土している。W-5は舟形といわれる祭祀具で、海上交通の安全を祈願したものであるとか、人の形代である人形とともに流し、穢れを払うものであるなどといわれている。23点出土しており、大規模な祭祀がおこなわれていた様子がうかがえる。



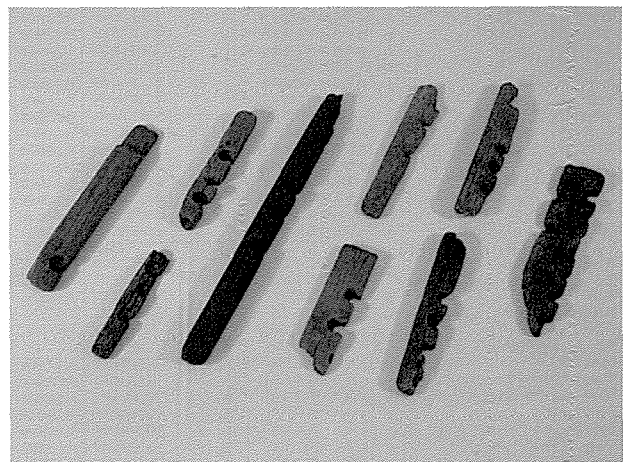
W-5 舟形

W-6はバットをすづまりにしたような横槌状木製品で20点以上出土している。横槌として使う

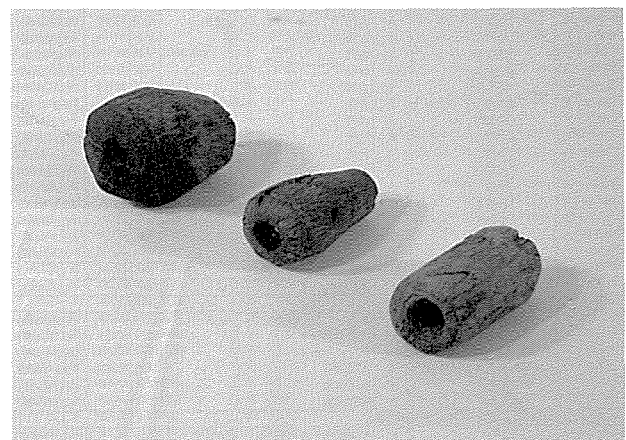
には短すぎ、また使用した痕跡もないため用途は不明であるが、共伴する遺物からこれらは祭祀具の人形ではないかという説が出されている。市内の他遺跡からも同様の木製品が出土しており、舟形、斎串といった祭祀具と共伴している。このほか火錐臼（W-7）や鳴鏞（W-8）が出土している。



W-6 横槌状木製品（人形？）



W-7 火錐臼



W-8 鳴鏞

平成20(2008)年度保存処理木製品一覽

Table with columns: 処理No., 区分, 遺物No., 資料名, 材質, 時代, 報告書Fig, 報告書PL, 処理方法. Includes sub-sections like 高畑9次, 吉武4次, 高畑10次, 重置1次, 免2次, 比惠51次, 博多96次, 下月隈C4次, 元岡・桑原12次, 下月隈C5次, 高畑18次, 元岡・桑原18次, 那珂73次.

Table with columns: 処理No., 区分, 遺物No., 資料名, 材質, 時代, 報告書Fig, 報告書PL, 処理方法. Includes sub-sections like 元岡・桑原20次, 下月隈C6次, 25305-25333 items.

【区分の補は国庫補助事業、市は市単費による】

Table with columns: 処理No., 区分, 遺物No., 資料名, 材質, 時代, 報告書Fig., 報告書PL., 処理方法. Includes sections for 原田大谷6次, 下月隈C8次, 箱崎32次, and 比恵79次.

Table with columns: 処理No., 区分, 遺物No., 資料名, 材質, 時代, 報告書Fig., 報告書PL., 処理方法. Includes sections for 下月隈O9次, 住吉神社12次, 元岡・桑原42次, and 福岡城址50次.

【区分の補は国庫補助事業、市は市単費による】

(3) 金属器・その他の遺物

今年度、木製品以外で何らかの作業を行った資料は、12遺跡866点である。その内容は別表に示すとおりである。今年度、保存処理班では大きな動きがあった。10年以上にわたって本市の遺物保存処理を担当してきた比佐陽一郎が人事異動で転出した。代わりに上角が転入したが、保存処理の経験がなく、本年度は基礎的知識・作業の習得に費やし、例年と比較しあまり成果をあげることができていない。

金属器類の保存処理は一部例外を除き、概ね以下の工程により行っている。

●事前調査：保存処理はしばしば人間の医療に喩えられるが、事前調査は病院の診察に当たる重要な工程である。肉眼による表面観察が基本となるが、その限界を補うために顕微鏡や透過X線など様々な理化学装置が用いられる。資料の腐蝕や劣化の状態を知ることが主目的として行われるが、それに付随して資料の材質、構造、付着物といった、考古学的に有益な情報も得られる。

●クリーニング：埋土や余分な腐食層の除去を目的とする。鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅、青銅製品の一部や、これを基調とする金銅製品、ガラス製品など、表面層のデリケートな資料は、顕微鏡下でのアルコール洗浄やメス等を用いたクリーニングを行っている。

●安定化：金属製品のメタル部分は塩化物や硫化物イオンにより、著しく腐蝕が進行することが知られており、特にメタルが残存する資料はこれらの不活性化や除去が必要とされる。銅・青銅製品については、ベンゾ・トリ・アゾールにより塩類の不活性化を図っている。鉄製品については、内部にメタルが残存し全てが錆に置き換わっていない資料について、水酸化リチウムのアルコール溶液やセスキ炭酸ナトリウムの水溶液に浸漬する方法により脱塩処理を行う場合がある。

●樹脂含浸：資料の強化や腐蝕の要因物質からの隔離を目的として、合成樹脂を含浸し保護膜の形

成を行う。いずれもアクリル樹脂を使用しているが、塗膜の厚さ等を考慮し、鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB-72を用いている。内部まで樹脂を浸透させる必要がある資料については50cmHg程度の減圧含浸を実施。

●修復：接着については、特に強度を必要としないものはセルロース系、強度を要する場合はエポキシ系の接着剤を使用。欠損の補填を行う場合、接着剤にマイクロバルーンを混ぜて粘度を高めたものや、鉄粉入りのエポキシ樹脂（国際ケミカル：ポップメタル）などを使用している。

以上の工程を経た後も、決して安心はできない。温度や湿度などの周辺環境は資料の保全に影響を及ぼすものであり、処置後の資料もできる限り安定した環境で保管されることが望まれる。そこで埋蔵文化財センターでは、金属器等の資料については24時間温湿度調整を行っている特別収蔵庫にて保管している他、必要に応じて特殊な材質の袋に脱水、脱酸素の機能を持った薬剤と共に資料を封入する方法（三菱ガス化学：RPシステム）での保管も行っている。

次に、今年度作業を行った中で主要な資料について報告する。

荒平古墳群は油山西側に位置する荒平山の裾に立地する。現在30基以上の古墳の存在が確認されているが、発掘調査が実施されたのは今回が最初である。2号墳・3号墳の2基の円墳が調査され、石室内から耳環・馬具の帯金具・鉄鏃・刀子・ガラス玉類が出土している。顕微鏡観察による事前調査で刀子2点にハエの困蛹殻が付着しているのが確認された。

元岡18・31次調査は谷部の大規模調査であり、主に18次では中世、31次では古代の金属器が出土している。釘・刀子・鋤先・鎌などである。

博多遺跡群第161次調査地点は、陸側の古砂丘「博多浜」の北端に位置する。中世後期の土坑や包含層から14点のガラス資料が出土している。蚩

光X線分析の結果、ほとんどの資料がカリウム鉛ガラスで、1点のみカリ石灰ガラスと見られる。中世博多出土のガラス製品の多くがカリウム鉛ガラスであるが、本地点においても同様の結果が得られた。銭貨も46点出土しておりX線写真撮影をおこなった。各種の中世渡来銭が見られるなか、五銖銭が1点含まれる。

博多遺跡群第170・173・178次調査地点は冷泉町・祇園町に所在する。「博多浜」古砂丘上にあたる。やはり中世段階の銭貨・刀子・釘等の金属製品が出土し、X線写真撮影やクリーニングをおこなった。

また、報告書を刊行し収蔵された資料のうち、博多遺跡群第130次調査出土遺物を利用して、上角が金属器保存処理の技術習得のための訓練をおこなった。同じく博多遺跡群第167次調査の未報告遺物のうち、近世墓の副葬品（和鋏・毛抜等）についても保存処理をおこなった。

箱崎遺跡第59次調査の資料はほとんどが中世後期の墓や土坑からの出土品であるが、貨泉が出土している。

(4) その他の作業について

この他、発掘現場からの保存科学的作業の依頼については例年通り、逐次対応している。今年度は、比恵遺跡群における木柱の取り上げなどを行った。

市外の各自治体との共同作業も行っている。宗像市からの依頼を受け、田熊石畑遺跡で出土した銅剣・銅戈の取上げに参加した。脆弱な状態での出土であったため、ガーゼ・添木で補強した後、パラロイドB72を塗布して取上げた。

また、鋤崎古墳群A群3次調査の9号墳出土鉄刀について、象嵌模様を調査を九州国立博物館の協力をいただいて実施した。調査後のX線調査で象嵌模様の存在はわかっていたが、当時は解析機器の性能に限りがあったため鮮明な画像が得られなかった。今年度改めて透過X線撮影を行ったところ、象嵌が複雑な文様で構成されていることが

判明、九州国立博物館に導入されている最先端の分析機器、X線CTによる調査を行った。この装置は従来の透過X線装置とは異なり、資料を360度回転させX線を全周から照射する。そのデータをコンピュータ上で画像構築して立体的に資料を観察することができる。X線CT調査の結果、刀のつばの両面とはばきの部位に、心葉文が連続して描かれていることなどがわかった。



鋤崎古墳群9号墳出土鉄刀のX線CT画像
(九州国立博物館提供)

埋蔵文化財センターにおいて平成11年度に導入された文化財用事前調査機器類は、前にも記したように考古学的に有益な情報も得ることができる。これらの装置をまとめて揃えている施設は九州内でも限られており、周辺自治体の関連部署からは機器の使用が求められてきた。そこで、外部からの利用については、平成12年度に策定された利用基準（巻末参照）に依拠した作業を行っている。平成20年度は福岡県内の市町村を中心に、九州各地の自治体、大学などの研究期間から使用許可申請が提出され、それに基づいて対応した。

4. 入館者数

1. 入館者総数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)	
(日)	26	27	25	27	27	25	27	26	23	23	24	26	306		
個人	男	116	139	127	139	117	154	130	170	134	125	162	1,659	61.7%	
	女	24	66	41	43	37	37	51	79	43	47	62	596	22.2%	
	小計	140	205	168	182	154	191	181	249	177	172	224	2,255	83.9%	
	小学生	27	21	51	6	10	0	5	15	2	5	4	9	155	5.8%
	中学生	2	4	1	1	9	7	0	1	0	0	0	2	27	1.0%
	高校生	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1%
	大学生	10	16	16	22	28	20	26	27	18	11	17	7	218	8.1%
	その他	7	6	2	2	3	0	6	0	0	2	2	1	31	1.2%
	小計	46	48	70	33	50	27	37	43	20	18	23	19	434	16.1%
	合計(a)	186	253	238	215	204	218	218	292	197	190	247	231	2,689	100.0%
団体	一般	25	317	254	285	117	275	276	386	79	89	243	195	2,541	66.3%
	(団体数)	2	4	2	6	3	2	6	8	1	2	4	5	45	
	小学生	103	383	87	0	24	105	330	0	0	0	0	0	1,032	26.9%
	(団体数)	1	5	4		1	1	3						15	
	中学生	0	0	0	0	0	0	0	177	0	0	0	0	177	4.6%
	(団体数)								2					2	
	高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	(団体数)													0	
	大学生	0	40	15	0	0	25	0	4	0	0	0	0	84	2.2%
	(団体数)		2	2			3		1					8	
合計(b)	128	740	356	285	141	405	606	567	79	89	243	195	3,834	100.0%	
(団体数計)	3	11	8	6	4	6	9	11	1	2	4	5	70		
総計(a+b)	314	993	594	500	345	623	824	859	276	279	490	426	6,523		
出前授業	949	1340	1500	643	0	16	210	161	0	7	0	0	4,826		
(学校数)	9	17	17	7		1	3	3		1			58		

2. 個人入館者年齢区分

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)
0～19才	40	33	55	12	23	8	11	18	2	7	6	12	227	8.4%
20～29才	18	34	35	31	29	29	30	40	25	19	30	14	334	12.4%
30～39才	28	28	20	35	29	34	37	39	24	25	44	33	376	14.0%
40～49才	43	69	64	63	75	72	55	77	64	56	69	72	779	29.0%
50～59才	21	46	37	40	30	41	37	51	54	46	50	73	526	19.6%
60～69才	22	28	24	25	10	19	34	44	21	31	40	15	313	11.6%
70～79才	12	12	3	7	8	14	14	20	5	5	7	10	117	4.4%
80才以上	2	3	0	2	0	1	0	3	2	1	1	2	17	0.6%
計	186	253	238	215	204	218	218	292	197	190	247	231	2,689	100.0%

3. 個人入館者住所区分

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)
福岡市	125	150	195	145	136	131	124	170	122	141	153	155	1,747	65.0%
福岡県内	41	40	15	38	36	28	47	57	35	21	55	38	451	16.8%
県外	20	45	22	22	32	54	47	58	33	25	38	37	433	16.1%
国外	0	18	6	10	0	5	0	7	7	3	1	1	58	2.2%
計	186	253	238	215	204	218	218	292	197	190	247	231	2,689	100.0%

4. グラフ

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	半期計	合計
平成18年度	724	1,209	922	557	498	653	580	609	585	408	288	622	4,563	7,655
平成19年度	635	1,116	1,087	485	472	672	859	358	454	282	577	452	4,467	7,449
平成20年度	314	993	594	500	345	623	824	859	276	279	490	426	3,369	6,523
区分(日)	4月 26	5月 27	6月 25	7月 27	8月 27	9月 25	10月 27	11月 26	12月 23	1月 23	2月 24	3月 26		
各月一日平均(人)	12.1	36.8	23.8	18.5	12.8	24.9	30.5	33.0	12.0	12.1	20.4	16.4		
H20年度累計(人)	314	1,307	1,901	2,401	2,746	3,369	4,193	5,052	5,328	5,607	6,097	6,523		
開館以降累計(人)	321,785	322,778	323,372	323,872	324,217	324,840	325,664	326,523	326,799	327,078	327,568	327,994		

5. 平成20年度 当初予算

(1) 歳入

自主財源 61,357 千円 (国庫補助金 8,486 千円、使用料・手数料 119 千円、諸収入 399 千円)

(2) 歳出

70,361 千円 (管理運営費 40,739 千円、事業費 29,622 千円)

Ⅱ 埋蔵文化財センターの概要

1. 組織と職員

(1) 福岡市文化財行政の組織

教育委員会—教育長—教育次長—文化財部長

文化財管理課 管理係 部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化施設の管理及び整備
主 査 文化財資料室開設準備担当

文化財整備課 整備第1係 史跡の保存・整備・活用・現状変更、文化財保護審議会
整備第2係 福岡城跡及び鴻臚館跡の調査・整備
主 査 文化財調査

主任学芸主事

埋蔵文化財第1課 調査係 第1・2課の予算・決算、課の庶務、東部地区に係る埋蔵文化財の発掘調査及び保存

事前審査係 公共及び民間開発事業の埋蔵文化財に係る事前審査

埋蔵文化財第2課 調査第1係 国庫補助事業総括、課の庶務、西部地区に係る埋蔵文化財の発掘調査及び保存

調査第2係 九大移転地及び周辺部に係る埋蔵文化財の発掘調査

埋蔵文化財センター 運営係 施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示・教育普及

(2) 埋蔵文化財センターの職員（平成20年度）

所 長 力武 卓治	運営係長 河野 正 城戸 英明	文化財主事 瀧本 正志 文化財主事 田上勇一郎	嘱 託 片多 雅樹 (保存処理指導員)
	主任文化財主事 荒牧 宏行	文化財主事 上角 智希	

2. 施設

(1) 施設の概要

当センターは敷地面積4,000㎡、鉄筋コンクリート造3階建（建築面積1,015㎡、延床面積1,992㎡）の規模で昭和57年2月開館した。その後、昭和61年3月に収蔵庫を主とした増築（増建築面積1,035㎡、増延床面積1,994㎡）を行った。さらに平成9年度から大規模な増築・改造を実施し、平成11年4月にリニューアルオープンの運びとなった。現在、敷地面積7,481㎡、建築面積3,987㎡、延床面積10,713㎡の施設規模である。

(2) 施設の紹介

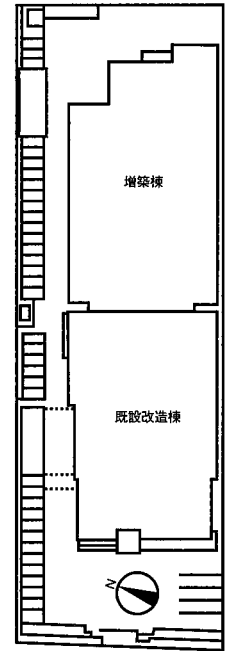
ホームページ（<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/>）には施設概要のほか前年度の事業実績、年度毎の保存処理の具体例、収蔵遺物などを掲載している。また、講座案内・申し込み受付も行っている。



(2) 主な施設

施設区分	室名	床面積 (㎡)
教育普及	第1展示室	167.00
	第2展示室	127.00
	第3展示室	61.00
	研修室	140.00
	図書室・図書コーナー	181.00
	貸出準備室	85.00
	資料閲覧室	58.00
収蔵	収蔵庫	5,601.00
	特別収蔵庫	547.00
	記録類収蔵庫	192.00
	荷解・搬入室	65.00
	消毒室	23.00

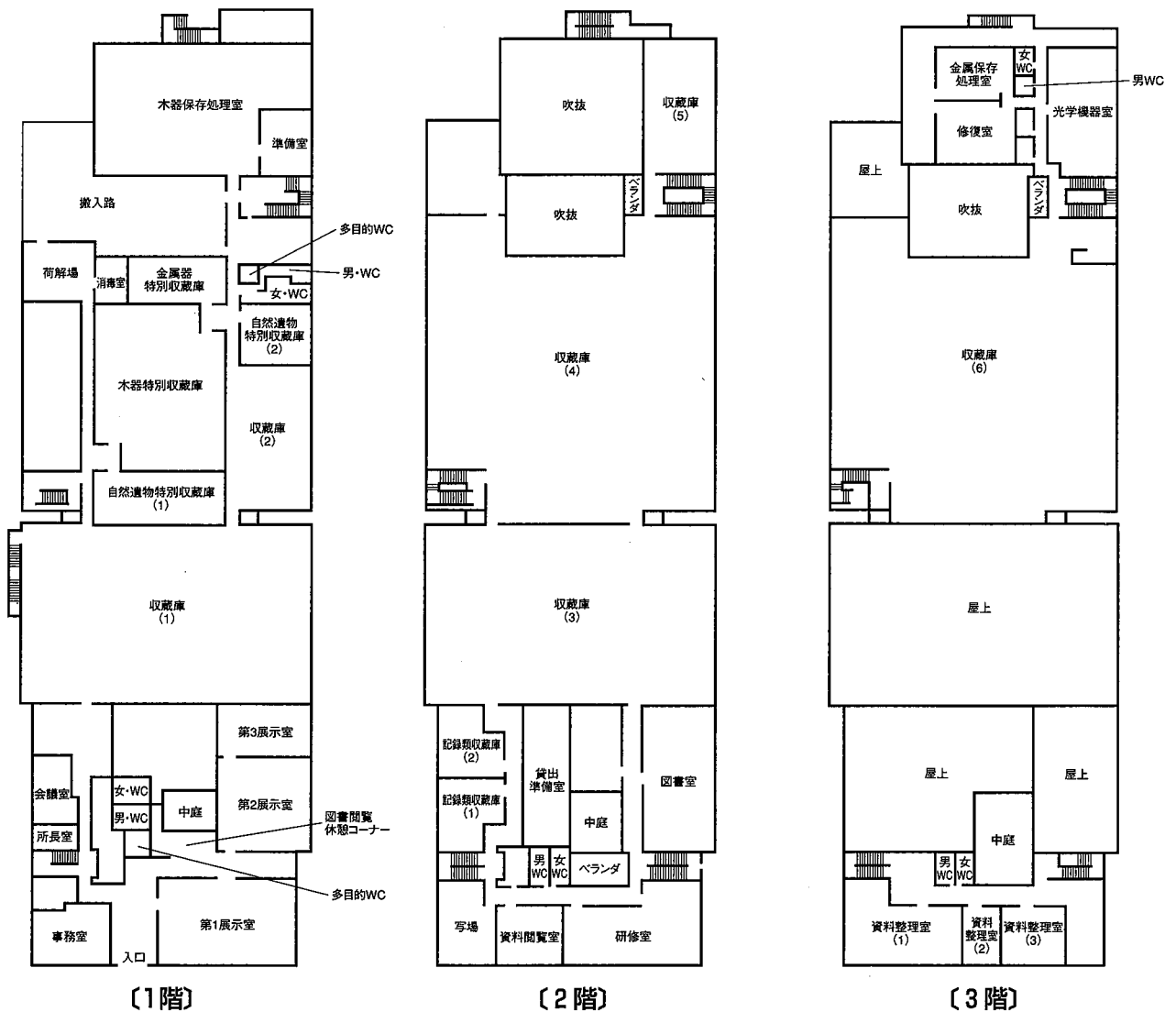
施設区分	室名	床面積 (㎡)
保存処理	木器保存処理室	426.00
	金属器処理室	156.00
	分析室 (光学機器室)	154.00
資料整理	洗浄室	37.00
	資料整理室	235.00
	写場・暗室	63.00
管 理	倉庫	58.00
	事務・会議室等	140.00
	警備・機械室等	258.00
	通路・エレベーター等	1,434.00
その他	庇・トラックヤード等	505.00
	計	10,713.00



建物配置図 ▶

正面入口

▼ 施設平面図



福岡市埋蔵文化財センター条例

(昭和56年12月21日
条例第66条)

(設置)

第1条 発掘調査等で出土した考古学的資料（以下「資料」という。）の保存と活用を図り、もって市民文化の向上に資するため、福岡市埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を福岡市博多区井相田二丁目に設置する。

(事業)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料を展示し、公開すること。
- (3) 資料の専門的調査研究を行うこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、センターの設置の目的達成に必要なこと。

(職員)

第3条 センターに所長その他必要な職員を置く。

(入館の制限)

第4条 教育委員会は、次の各号いずれかに該当する者に対し、入館を拒み、又は退去を命ずることができる。

- (1) センターの管理上必要な指示又は指導に従わない者。

(2) センターの管理上支障があると認められる者。

(資料の貸出し)

第5条 教育、学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のため特に資料を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2 前項の貸出しは、資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行うものとする。

(損害賠償)

第6条 資料の観覧者又は貸出しを受けた者が、その責めに帰すべき事由によりセンターの建物若しくは施設又は資料を破損し、滅失し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これらを現状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して3月を越えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

(昭和57年教規則第3号により
昭和57年2月22日から施行)

福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則

(昭和57年1月25日
教育委員会規則第4号)

改正 昭和61年一教規則2、平成3年一教規則7、
平成4年一教規則3、平成11年一教規則1

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市埋蔵文化財センター条例（昭和56年福岡市条例第66号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 福岡市埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）の事務を行うため、センターに運営係を置く。

(職員)

第3条 センターに所長、係長、吏員その他の職員を置く。

2 前項の職員のほか、特定事務を担当させるため、センターに主任文化財主事及び文化財主事を置くことができる。

3 所長、係長、主任文化財主事及び文化財主事は、吏員のうちから命ずる。

4 係長又は主任文化財主事のうちから総括係長を命ずることがある。

5 所長及び係長は、上司の命を受けてセンター又は係の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

6 主任文化財主事及び文化財主事は、上司の命を受けて担当事務を処理する。

7 吏員その他の職員は、上司の命を受けて分担する

事務を処理する。

(職務権限の代行)

第4条 所長に事故がある場合又は所長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、係長がその係に属する事務について所長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、文化財部長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により所長の職務権限を代理して行う者がいないときは、文化財部長が行う。

(開館時間)

第5条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認める場合には、これを変更することができる。

(休館日)

第6条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育長は必要と認める場合には、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館者の心得)

第7条 センターに入館する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 所定の場所以外の場所で飲食し、喫煙し、又は

火気を使用しないこと。

- (2) 騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
 - (3) 危険物又は動物を持ち込まないこと。
 - (4) 所定の場所以外に立ち入らないこと。
 - (5) 職員が行う管理上必要な指示又は指導に従うこと。
- (貸出し)

第8条 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しを受けようとする者は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書(様式第1号)を教育長に提出しなければならない。

- 2 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しの許可は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可書(様式第2号)を交付して行う。

(寄贈等)

第9条 センターに資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

- 2 寄託を受けた資料の貸出しは、寄託者の承諾を得て行うものとする。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和57年2月22日から施行する。

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

この規則は、平成4年4月1日から施行する。

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

保存処理設備機器の外部使用許可基準

1. 基本的使用許可基準

外部に対する保存処理設備機器の使用許可に際しては、下記要件を満たすものであることを原則とする。

- (1) 本市の保存処理業務に支障をきたすおそれがないこと。
- (2) 文化財保護の観点から重要性があり、本市の文化財保護行政に寄与するものであること。

2. その他の許可基準

- (1) 使用は、センター職員の指導・助言のもと、原則として外部担当職員が行うものとする。
- (2) 使用に際して必要となる原材料・作業員等は使用者側(外部)の負担とする。
- (3) 一括委託等請負的な処理は許可しないこととする。
- (4) 民間業者等営利を目的とする団体からの依頼については許可しないこととする。
- (5) 緊急性のある場合や特殊なものを除いて、通常の保存処理については受け付けられないものとする。
- (6) 使用に際しては、事前にセンター職員と協議のうえ申請書を提出し、許可を得ることを必要とする。
- (7) 使用にあたってはセンター職員の指示に従うこと。また指示以外の行為により機器を破損した場

合は、使用者側の責任において原状回復すること。

3. 対象機器一覧

本基準を適用する保存処理機器は、別紙一覧表の通りとする。

4. 許可基準の理由(略)

本基準は平成12(2000)年3月1日より施行する。

(別紙) *主な保存処理機器の品名のみを列記

大型PEG含浸槽、一体型PEG含浸槽、真空凍結乾燥機、小型真空凍結乾燥機、有機遺物処理装置、減圧含浸装置、工業用電子天秤、偏光顕微鏡、実体顕微鏡、ビデオマイクロスコープ、赤外線カメラ、画像ファイリング装置、分析用電子天秤、赤外線分水計、大型滑走式マイクロトーム、蛍光X線分析装置、微小部蛍光X線分析装置、X線回析装置、走査電子顕微鏡、顕微赤外分光光度計、透過X線撮影装置、分析用試料作成装置、マグネチックスターラー、ドラフトチャンバー、精密噴射加工機(エアブラシ)、精密グラインダー、送風定温乾燥機、大型送風定温乾燥機、真空乾燥機、卓上電気炉、純水製造装置、超音波洗浄機、真空デシケーター、攪拌機、真空脱泡用デシケーター、シーラー、バキュームシーラー、ホットエアガン

埋蔵文化財センターにおける有料複写サービス取り扱い要項

(目的)

第1 この要領は、教育委員会文化財部埋蔵文化財センターにおいて、埋蔵文化財センター図書室所蔵発掘調査報告書等行政資料のサービスを行う際の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(複写サービスの申し込み)

第2 複写サービスの申し込みは、口頭で受けるものとする。

(複写手数料)

第3 複写サービスについては、福岡市手数料条例(昭和35年条例第11号)第2条第2項に基づき実費を徴収するものとし、その複写サービス料金は次の通りとする。なお、手数料については利用者が見

やすいところに掲示するものとする。

- (1) 用紙の規格は日本工業規格B列5番からA列3番までとし、1枚につき10円とする。

(複写手数料の納入等)

第4 行政資料複写の申し込みがあった場合は、申込者に対して複写手数料の金額を告知し、現金による納入を受けた後、金銭登録機で打出した領収票又は現金領収帳による領収書を交付するものとする。

付 則

この要項は平成12年4月5日から施行する。

この要項は平成14年8月1日から施行する。

この要項は平成15年1月7日から施行する。

付2 平成20年度刊行福岡市埋蔵文化財調査報告書・年報一覧

- 1022集 史跡 鴻臚館跡 鴻臚館跡18～谷(堀)部の調査～(調査番号9910・0008・0109・0218・0309・0415・0502)
1023集 荒平古墳群1～E群第2号墳・第3号墳調査の報告～(調査番号0722)
1024集 有田・小田部46～第226次調査報告～(調査番号0735)
1025集 大塚遺跡3～第8次・10次・12次・13次調査の報告～(調査番号0528・0659・0702・0715)
1026集 飯氏遺跡5～第12次調査報告～(調査番号0723)
1027集 井相田C遺跡7～井相田C遺跡第8次調査報告～(調査番号0703)
1028集 板付9～板付遺跡第71次調査の報告(調査番号0707)
1029集 五十川遺跡6～五十川遺跡第13次・第14次調査の報告～市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告書6(調査番号0444・0481)
1030集 坂堤1～一般国道3号博多バイパス建設に伴う調査1～(調査番号0725)
1031集 田村15～田村遺跡第21次調査報告～(調査番号0652)
1032集 市道戸切通線工事に伴う発掘調査報告書1～上籠遺跡第1次調査～戸切巡り町遺跡第1次調査～兵庫遺跡第1次調査～(調査番号0738・0739・0740)
1033集 那珂52～那珂遺跡群第80・83・84・98・110・118次調査報告～(調査番号0122・0146・0217・0421・0550・0719)
1034集 那珂53～那珂遺跡群第117次調査報告～(調査番号0717)
1035集 那珂54～那珂遺跡群第119次調査報告～(調査番号0721)
1036集 那珂55～那珂遺跡群第120次調査報告～(調査番号0729)
1037集 仲島遺跡1～第2次調査報告～(調査番号8332)
1038集 博多126～博多遺跡群第161次調査報告～(調査番号0572)
1039集 博多127～博多遺跡群第166次調査報告～(調査番号0646)
1040集 博多128～博多遺跡群第170次調査報告～(調査番号0667)
1041集 博多129～博多遺跡群第171次調査報告～(調査番号0670)
1042集 博多130～博多遺跡群第173次調査報告～(調査番号0708)
1043集 博多131～博多遺跡群第176次調査報告～(調査番号0728)
1044集 博多132～博多遺跡群第178次調査報告～(調査番号0748)
1045集 博多133～博多遺跡群第180次調査報告～(調査番号0754)
1046集 箱崎36～箱崎遺跡第47次・第55次調査報告～(調査番号0437)
1047集 箱崎37～箱崎遺跡第56次調査報告～(調査番号0665)
1048集 箱崎38～箱崎遺跡第59次調査報告～(調査番号0749)
1049集 比恵55～比恵遺跡群第112次調査報告～(調査番号0745)
1050集 比恵56～比恵遺跡群第113次調査報告～(調査番号0761)
1051集 東比恵三丁目遺跡2～東比恵三丁目遺跡第2次調査報告～(調査番号0713)
1052集 藤崎遺跡～藤崎遺跡第36次調査報告～(調査番号0743)
1053集 女原遺跡4～第1次調査報告～(調査番号8517)
1054集 麦野A遺跡5～麦野A遺跡第18次調査報告～(調査番号0740)
1055集 麦野A遺跡6～麦野A遺跡第19次調査報告～(調査番号0724)
1056集 麦野A遺跡7～第20次調査報告～(調査番号0755)
1057集 麦野C遺跡6～麦野C遺跡第11次調査報告～(調査番号0731)
1058集 姪浜遺跡3～第4次調査の報告～(調査番号9844)
1059集 免遺跡2～第3次調査報告～(調査番号0712)
1060集 諸岡B遺跡3～諸岡B遺跡第23次調査報告～(調査番号0744)
1061集 吉武遺跡群22～史跡整備に伴う第17・18・19次調査報告～(調査番号0363・0483・0534)
1062集 老司瓦窯跡～第1・2・3次調査報告～(調査番号0654・0663・0701)
1063集 元岡・桑原遺跡群14～第12・18・20次調査の報告(上)(下)～九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書(調査番号9902・9946・0001)
1064集 元岡・桑原遺跡群15～第33・40・41・44・47次調査の報告～九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書(調査番号0303・0410・0435・0523・0562)

福岡市埋蔵文化財年報V o 1.22 —平成19(2007)年度版—

博多遺跡群第174次(0711)・177次(0730)・181次(0760)、釜ヶ谷遺跡第1次(0716)、
諸岡B遺跡第21次(0720)・第22次(0733)、箱崎遺跡第58次(0736)、有田遺跡群第227次(0753)、
中ノ原遺跡第2次(0756)

福岡市埋蔵文化財センター年報 第28号

2010年3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市博多区井相田2-1-94

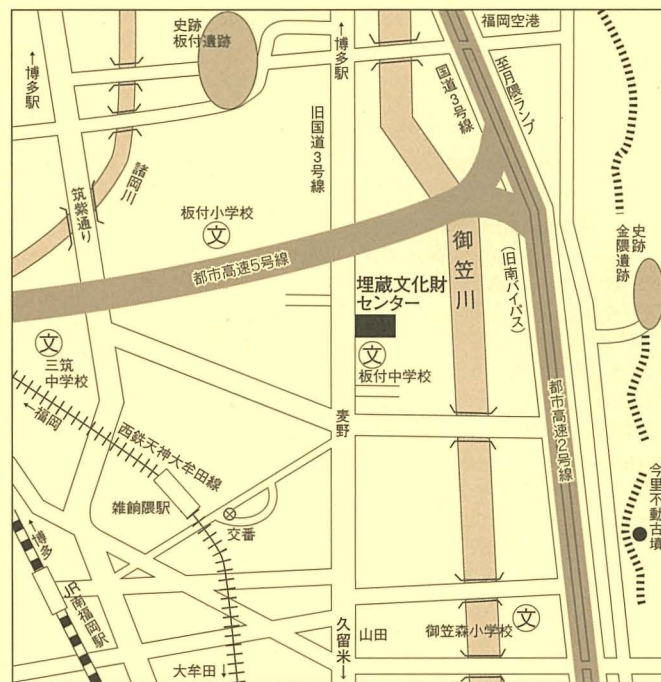
印刷 九州チューエツ株式会社
福岡市博多区東比恵2-9-1

FUKUOKA CITY ARCHAEOLOGY CENTER

Annual Report

No.28

2009



福岡市埋蔵文化財センター

- 所在地 福岡市博多区井相田2丁目1-94 (〒812-0881)
- 電話 (092) 571-2921 Fax. (092) 571-2825
- 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日・年末年始 (12月28日～1月4日)
- 入館料 無料 (ただし団体見学の案内は事前に連絡が必要です)
- 交通手段
- 西鉄天神大牟田線 雑餉隈駅ざっしよのくまから徒歩15分
 - JR鹿児島本線 南福岡駅から徒歩25分
 - 西鉄バス 博多駅交通センターから41番雑餉隈営業所行ざっしよのくまに乗車約30分
板付中学校前いたづけ (埋蔵文化財センター前) 下車すぐ

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/>